

WACATE マガジン Magazine Vol.5

✿ ご挨拶 ✿

こんにちは。WACATE-Magazine 編集部です♪
ニューシーズンの変化もひと段落ついてきたころと思いますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？

5月となると思い浮かぶのは鯉のぼりですね♪

何故「鯉」のぼりなのかというと、これは立身出生、
商売繁盛の象徴である中国の故事「鯉の滝登り」に由来しています。

～ 鯉の滝登り ～

昔、中国は黄河に竜門滝と呼ばれる滝がありました。
この竜門滝を登り切れたのは多くの魚のなかで鯉だけでした。
そして、鯉は竜へと成り、大空へと飛び出していったのです…

皆さんも色々な壁を乗り越え、竜になれるといいですね☆

さて、最近は温かいというより暑くて薄着で十分という日も出てきましたね。

暑いといえば夏。夏といえば WACATE 夏！そう、WACATE 2009 夏の開催が決定しましたー♪
もーいくつねるとーWACATE 夏ー♪今回はどこよりも詳しい事前情報を大放ししちゃいますっ☆



✦ vol.5 のお品書き ✦

- p.01 ご挨拶/お品書き/WACATE TOPICS
- p.02 【特集 1】 WACATE 2009 Summer もうすぐナツだよ★ 速報大放し！
- p.05 【特集 2】 ソフトウェアテストの資格って。
- p.12 【コラム】 とゆうわけ。JSTQB 受験してきた！
- p.14 【連載】 ゆもつよの「はい、こちらテストング事業部」
- p.15 【一般】 WACATE Short Short vol.1 開催記念 Report!!
- p.27 【リレーコラム】 せんぱいにきく。
- p.28 【リレーコラム】 ワカテにきく。
- p.29 【トピックス】 SoftwareTestTopics
- p.30 【連載】 池田暁の「ミュージカルに恋して」
- p.32 【不定期連載】 コヤマンの「補給戦線異状なし！」
- p.33 【リレーコラム】 WACATE-Blog 出張所
- p.34 【連載】 源太郎の「開運ソフトウェアテスト占い」
- p.35 お知らせ/編集後記/おくづけ

✦ WACATE TOPICS ✦

[News] [WACATE 2009 夏の告知](#)をしました。

[News] 4/18(sat)にファンによるイベント「[WACATE Short Short](#)」が開催されました！

[Web] 「WACATE Short Short」が[組み込みネット](#)に紹介されました！

[Web] [Web サイト](#)をリニューアル♪

WACATE2009Summer

もうすぐナリだよ★速報大放出!

TEF(Test Engineer's Forum:テスト技術者交流会)やメディアなど、さまざまな方面に予告をさせていただいておりますが、来る6月13日(土)~14日(日)、とうとう **WACATE 2009 夏** を開催させていただくことが決定いたしました!

■はじめに

皆さんこんにちは。WACATE 2009 夏、募集開始間近! というワケで今月のWACATE-Magazineは「WACATE 2009 夏の速報大放出!」と題して事前情報を発信していきたいと思ます!

■現地で実行委員合宿やってきました!

実は毎年恒例になっているWACATE 実行委員合宿! 現場視察をメインに、温泉につかるために(?) 合宿を敢行してきました!



三浦海岸駅に着くと快晴!

春だったのに(笑)WACATEの熱気が伝わったかのような暑さでした!

三崎港近くということもあってか、駅前のガードレールも **おさかな**♪

駅から徒歩3分くらいで現地に着きます!(本当)



駅から降りるとすぐ見ることがあるので、迷わないと思ます。いろいろ写真撮ったりなど、例の如く副実行委員長に活躍していただきました!(笑)

そして会場の方との打ち合わせを交えながら、館内視察などなど…。



当日は、1日目は朝からガンガン集中して議論をしていただき、夜になったらホテル側についてゆったりしてもらおうプランとなっております。

ホテルにはこんなステキなステンドグラスがあったりします♪

そして、一生懸命議論したあとは広いお風呂でゆっくり寛いでいただきます★

そして気になる景色はこんな感じ!海ー!!!



そうなんです!ベランダから海に向かって**熱い想いを叫べます!**!※迷惑行為はやめましょう(笑)

■夏は実行委員合宿よりも濃い合宿ですぜ！

今年の夏も**アツい**予定ですよっ！

方針は「**超★ス・パ・ル・タ★**」

去年の夏を経験した皆さんも、今年初めてチャレンジする皆さんも覚悟はいいですか？

去年と同様かそれ以上のプレッシャーの中、選ばれた勇者達に**試練を与えます！**熱き仲間たちと試練を見事乗り越えてくださいね！



もくもくと作戦会議ちう。

■どうやってやるの？

それは当日までのお楽しみ…といきたいところですが、ちょっとだけ公開！

班に分かれて「**レビュー設計**」からさせていただきます！

レビュー実施のプロセスを体験していただき、**班のメンバーとアツいディスカッション**をしながら**成果物**を作成していきます！

ロールプレイでプロセスを体験できる**ところがWACATE夏の醍醐味！**

とゆーワケでガシガシ体験していただきます★

もちろんWACATE恒例ポジセッションもやります！WACATE2008冬から開始した”あの”**ディナーセッション**の他、今回も**ベストポジションペーパー賞**を用意しております！



他にもあーんなコトやこーんなコトまで…

いやー。ホントはもっとたくさんお伝えしたいところですが！ががが！今回はココまでにしておかないと怒られちゃうので内緒ってコトで…w

■って。

…え～それだけ～?? (一公一#

と、そんな声が聴こえてきそうなので…

事前学習の参考にさせていただきそうな情報を展開したいと思います☆

実行委員ではレビューに関する情報を最近幅広く勉強しています！！そんな中で、これオススメだなあという情報を紹介したいと思います☆

※なお、紹介する情報がワークショップに必要というわけではないです。

それでも幅広く情報を得ておくと、いろいろ役に立つと思いますよ♪

■参考書籍

まずは実行委員で勉強している際に参考にしている書籍をご紹介します★

もちろん、以下に紹介したものがすべてではありませんので、皆さんもいろいろ探して参考にしてくださいね♪

「[SQuBOK Guide](#)」

SQuBOK 策定部会(編集)

もはやソフトウェアテスト業界のコトを勉強するならまず確認するのがこのSQuBOK。今回もレビューの基礎知識を確認するために参考にさせていただきました。

「[ピアレビュー](#)」

Karl E. Wiegers(著)

とても読みやすく、レビューとはそもそもどういったものであるかから解説が入ります。

ピアレビューということで公式レビューのプロセスが丁寧に記載してあります。実際にどうやって進めるのか、どのような役割があって、どう振舞えばよいのか。また参加者の寸劇などが掲載されていますので、よりイメージが湧きやすいかと思います★

「[ソフトウェアインスペクション](#)」

Tom Gilb, Dorothy Graham(著)

上記で紹介した「ピアレビュー」の中にもGilbの技法は紹介されています。

非常に形式的な内容なので、ちょっと初心者にはハードルが高いかも知れません。ですが他の書籍やサイトで学習してから読むとよいかも知れません。

中身も本も重厚ですw

■thinkIT(シンクイット)

まずびっくりしたのは、レビューの勉強を始めた頃に、**thinkIT(シンクイット)**でレビューの特集が公開されたことです！

あたしたちって、すごく運がいいかも〜♪

お題がレビュー、と決まったときに真っ先にアクセスしたサイトでもあります。

森崎 修司氏の記事「技法とテンプレート！」では、チェックリストや指摘一覧のテンプレートも紹介されているため、イメージが掴みやすいです。

実際に最近業務でレビューを行いました、その時にも参考にさせていただきました。

「技法とテンプレート！」

- ・ [インスペクションとは何か？](#)
- ・ [技法の分類とテンプレート \(基本編\)](#)
- ・ [技法の分類とテンプレート \(応用編\)](#)
- ・ [インスペクションで何を指摘するべきか](#)
- ・ [インスペクションを自在にカスタマイズ](#)

細川 宣啓氏の記事「インスペクションは誰が行うべきか」すごく具体的な解説で、また、時に具体例が身近なものに置き換えられていて、楽しく理解できると思います。

完了基準のための確認としてあげられている一言

「その仕様書、設計書で、テストケースは導出できますか？」

この言葉に、テストエンジニアの立場で仕様書や設計書のインスペクションに関わることの有効性を感じています。テストケースを作成するときにドキュメント欠陥を見つけることはよくあることですね。

「インスペクションは誰が行うべきか」

- ・ [第三者インスペクションとは](#)
- ・ [定量データに基づくインスペクション](#)
- ・ [対象別インスペクション攻略法！](#)
- ・ [インスペクタはこんなところをみている](#)

また細川氏には前号のセミナーのときにもお世話になりましたし、WACATE 2009 夏のクロージングも担当していただけるとの事で、今から実行委員も楽しみにしています！

なんと thinkIT には、WACATE 実行委員である、我らが**あだちさんの記事もありますよ！**

「あの会社のレビュー手法を大公開」

- ・ [すぐに使える！レビュー効果向上の秘訣](#)

こちら大変ためになる記事です★

■日本科学技術連盟(日科技連)

テストエンジニアの観点や視点は、仕様書や設計書などのレビューに大きく貢献できると思います。

そもそもレビューは「静的テスト」ですし・・・

「要求仕様書におけるテストエンジニアの視点を活かした欠陥検出方法の提案」という論文が日科技連の第24年度(2008年度)ソフトウェア品質管理研究会第5分科会より発表されています。実に興味深い内容です。

私はTEFでこれが紹介されるまで気づきませんでした(恥)。と同時に同じ思いを抱いている人がいることに勇気づけられました。

テストエンジニアは上流工程から関わることが望まれ、それを提案していくべきだと。

もっと上流工程から関わってコストをかけずに品質を良くしたい！！そのために、レビューの勉強をしたい！でも知識だけじゃ理解に限界があるから、経験がほしい！

・・・しかし、レビューを準備からしっかり行う機会はなかなか若手には訪れないと思います。

そんなわけで、今回のワークショップで、思う存分経験していただきたいと思っています。

なお、第24年度(2008年度)ソフトウェア品質管理研究会第1分科会、第23年度(2007年度)ソフトウェア品質管理研究会、第1分科会においてもレビューのメトリクスやプロセス改善についての研究論文が発表されていますので参考までにご覧くださいませ^^

■最後に。

レビューは勉強すればするほど奥が深いですよ！実践すると、さらにその想いは強くなるかも知れません！実行委員も当日を楽しみにしております♪

ではでは、みなさん奮ってご参加くださいますよう、実行委員一同、心からお願い申し上げます！

一緒に濃ゆ〜い**アツい**夏を過ごしましょう！

参加受付開始は5月11日(月)を予定しています！
(こやまん&ぼんぼん)

ソフトウェアテストの資格って。

4月から社会人としての第一歩を踏み出した人。今年度はなにか新しいことに挑戦しようという人。そんな桜の花びら舞い散る春うらら。そう、春は始まりの季節です。そんなみなさんのために、今回は、ソフトウェアテストや品質に関連する資格試験についてご紹介したいと思います。

▼はじめに

近年のソフトウェアの品質やテストに対する関心の高まりには、目を見張るものがあります。

例えば、ソフトウェアの品質やテストの名を冠した日本語で書かれた書籍などは、格段に増えていき、一昔前と比べると良質な情報を得やすい環境がそろってきました。

このようなありがたい環境は、書籍だけにとどまらず、ソフトウェアテストに関するシンポジウム、セミナー、勉強会なども頻繁に開催されていますし、そもそも WACATE というワークショップイベント自体も、そういった世相を映した一遍と言えるかもしれませんね。

そんな、ソフトウェアテスト業界の盛り上がりを感じられるものの一つとして、「資格試験」があります。なぜかは、本文を読んで頂くとして、今回は、そんなソフトウェアテストに関連する資格試験を特集したいと思います。

▼いろいろな資格試験

さて、皆さんはソフトウェアテストに関する資格試験をいくつくらいご存じでしょうか？

今回、WACATE-Magazine 編集部で取り上げる資格試験は、全部で4つ。JSTQB、JCSQE、IVEC、CSQE についてご紹介したいと思います。(注：日本国内において、日本語で受験できる資格に限定しているので、海外の資格については考慮していません)。

- JSTQB (Japan Software Testing Qualifications Board)
- JCSQE (JUSE Certified Software Quality Engineer)
- CSQE (Certified Software Quality Engineer)
- IVEC (IT Verification Engineer Certification)

どうでしょう。「意外といっぱいあるんだなあ」と感じた方も多いのではないのでしょうか？

▼資格試験の成り立ち

ここで、各資格試験がいつ頃から行われるようになったか観てみましょう(図1を参照)。

JSTQB が 2006 年 1 月にトライアル試験を実施し、同年 8 月に第 1 回として始まりました。

翌年の 2007 年の 3 月には IVEC が、昨年の年末(2008 年 12 月)には JCSQE がそれぞれ始まり、今年の 2009 年 6 月には CSQE が開催される予定です(CSQE のトライアル試験自体は、2006 年に実施されています)。

2006 年の JSTQB を皮切りに、毎年新しい資格試験が誕生していることとなります。これも、ソフトウェアテストや品質への関心の高まりを表す指標の一つと言えるのではないのでしょうか。

なお、開催地については、次の図 2 を参照してください。残念ながら、日本全国どこでも受験できる訳ではありません。基本的には、東京か大阪で受験する必要があります。JSTQB に関しては、受験者数の増加に伴い、比較的多くの地域で受験することができるのが嬉しいところですね。

基本的に、各資格とも、一定以上の受験者数が確保できるのであれば、図に記載されていない場所での開催も検討するとのことなので、詳しくは主催者に相談してみるとよいでしょう。

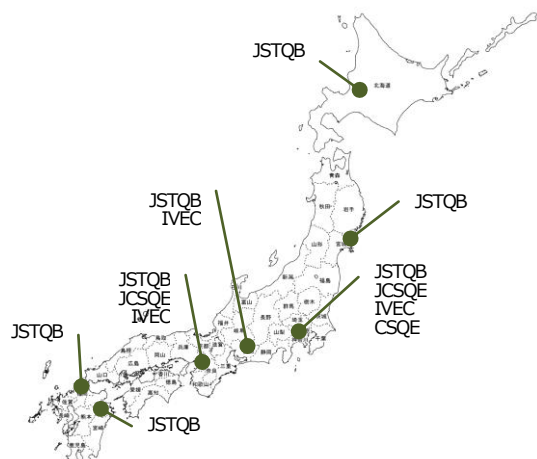


図 2：各資格試験の開催場所



図 1：各資格試験の開始時期

▼資格を取ることとは？

ここで少し、根本に立ち返ってみましょう。なぜ資格を取る必要があるのでしょうか。理由は、人それぞれ、千差万別、いろいろかかと思ます。

ある人は自分の力試しに受験したり、またある人は会社から受験しろと言われたからであったり、またある人は転職に有利になるからと言うかもしれません。

もちろん、それらの理由であってもなんら問題ないのですが、ここでは筆者が思うところの、資格を取るための理由について書きたいと思ます。

●自身の知識の棚卸し

各資格には基本的にシラバスが用意されています。このシラバスを概観するだけでも、資格試験の扱う範囲が非常に広く、また体型的であることが把握できるでしょう。そういった体型的な特定知識の集合は、いわば **BOK (Body Of Knowledge, 知識体系)** と呼べるものであり、その習得にはベテラン、若手を問わず有効であると思ます。

まず、若手の場合を考えてみましょう。ソフトウェアテストという特定ドメインの知識を体型的にかつ網羅的に勉強しようとした際、何の指標もなしに闇雲に勉強するのは効率が良いとは言えないでしょう。そういった時に、資格試験は非常に有効です。先ほど述べたとおり、資格試験はある意味 **BOK とも言える体型的な知識を扱うため、勉強を進めていく上での指標になり得ます。**

例えば JCSQE などは、そもそも **SQuBOK** という BOK が主参考書として指定されていますし、JSTQB の FL のシラバスを眺めてみると、ひとえにソフトウェアテストといっても、非常に多岐にわたった範囲を取り扱っていることに気づくと思ます。

また、継続してモチベーションを保ちつつ勉強するのはなかなか難しいものがあります。 **資格をとるという明確な目標を持つことで、その助けとなる** でしょう。もちろん、資格を取ると言うことは手段であり目的ではないことは言うまでもありませんが、資格試験は、自分の得たい知識ドメインについての知識を体型的にかつ網羅的に得ることができるでしょう。

他方、ベテランにとって資格試験は有効なのでしょうか？ 既に業務に必要な知識は持っており、いまさら資格を取ることに疑問を持つかもしれません。しかし、資格試験は、 **今までの自身の知識を一度棚卸しし、整理し、そして弱点の発見と克服に寄与する** と思ます。

既に知っていると思っていた事でも、もう一度勉強し直してみると、意外と忘れていたり、または間違えて覚えていたことがあるかもしれません。また、普段の業務で使用していない知識を再発掘し、見つめ直すことで新たな気づきを得、今まで知識の引き出しにしまったままになっていた情報を活用できるかもしれません。

このように、資格試験は、若手にとっては身近な指標、ベテランにとっては自身の知識の棚卸しに有効であると言えるのではないのでしょうか。

●共通言語の獲得

次に、資格試験は共通言語の獲得に寄与すると思ます。共通言語というと、なんだか大げさな感じもしますが、ようは **共通する知識のバックグラウンドを持てる** というメリットがあります。

皆さんは、社外、または自分の属する組織外の人と、ソフトウェアテストや品質について話す際、お互いの認識のずれに戸惑ったことはないでしょうか？

例えば、単純に機能テストという単語をとってみても、人によって思い浮かべるイメージが異なり、会話が次第にかみ合わなくなっていったりする場合がないでしょうか？

ソフトウェアテストに限らず、単語などはその企業の文化が色濃く反映されたりするので、同じ単語でも人によっても意味するところが大きく異なることは珍しくありません。

そこで、もしお互いが同じ資格を取得しており、話の前置きとして、「〇〇で言うところの機能テスト」としておけば、認識のずれは、最初と比べて大きくはずれなくなるでしょう。また、お互いの知っている知識領域が分かっていた場合、どれくらいの内容であれば相手が理解できているか把握する助けとなり、話し合いをスムーズに進めることができるでしょう。

以上のように、資格試験は、コミュニケーションの助けとなると筆者は思ます。

●社内に対するアピール

さて、最後に提案するメリットは、社内に対するアピールです。この他のふたつとは性格が異なるこのメリットは、しかし、多少特殊で、限定的かもしれません。

例えば、テストなんて新人にやらしておけば良いなどのたまたま上司を持った技術者は不幸です。残念なことに、会社によってはソフトウェアに対する品質やテストについて、理解が得られにくい組織は決して少なくありません。そんな無理解な職場や上司に対し、 **資格試験をアピールのひとつの道具として使うことができる** かもしれません。ソフトウェアテストというものは、資格試験にもなっているような専門知識を必要とする技術職であるのだと。

また、 **今まで以上の役割を任せてもらうために、これくらいの知識は持っているということを上司にアピールする材料** にもなるかもしれません。

筆者が思うところの資格試験についてのメリットを述べてきましたが、資格を取ると言うことは、決してゴールではありません、手段ではあっても目的にはなり得ないのです。ある意味、 **資格を取ると言うことは新しいスタート** と言えるかもしれません。

資格試験を取るために得た知識は、まだ単なる情報でしかなく、それを如何に実際の業務に活かしていくかが重要なのではないのでしょうか。

さて、前置きはこれくらいにして、次のページから、各資格試験について詳しく観ていきたいと思ます。

■ JSTQB (JSTQB テスト技術者資格認定) ■

●概要

JSTQB テスト技術者資格認定は、現在もっとも広く認知され、また受験されているソフトウェアテスト技術者向けの資格です。

元々 ISTQB (International Software Testing Qualifications Board) という国際的な組織があり、この組織に各国の団体が加盟する事により、相互認証を行っています。ISTQB の委員長は、今年の3月26日に行われた選挙において、Yaron Tsubery 氏が新たに選任されました。それまでは、日本においても「基本から学ぶテストプロセス管理」や「ソフトウェアテスト12の必勝プロセス」の著者としても有名な、Rex Black 氏がつとめていました。

現在、ISTQB に加盟している各国の団体は41団体(注: 加盟団体としては41団体だが、内、South East European Testing Board は、ブルガリア、ロマリア、セルビア、そしてモンテネグロの4国で構成されて、オーストラリアとニュージーランドが Australian/New Zealand Testing Board として加盟しているため、団体数=国数ではありません)にも及び、世界的規模のソフトウェアテスト技術者認定組織となっています。

例えば、アメリカでは ASTQB、中国では CSTQB といった形で、各国の加盟団体が ISTQB と協力関係のもと、各国で運営しています。また、2009年4月には、全世界でISTQBの認証を受けた技術者が Foundation Level, Advanced Level I をあわせた11万5千人を超えたことから、その規模を伺うことができます。

日本においては、2005年4月に JSTQB (Japan Test Certification Board, 2006年5月に JSTQB に名称変更) として ISTQB に加盟し、その後、NPO 法人 ASTER (Association of Software Test Engineering, ソフトウェアテスト技術振興協会) に合流し、現在に至ります。これによって、日本においても日本語で受験できる体制ができました。そして、JSTQB で取得した資格は、ISTQB のものとして日本だけではなく、世界中でも有効な資格となります。

国・地域名	資格取得者数	
	Foundation	Advanced
米国	3,646	109
ベルギー・オランダ	5,522	305
中国	76	7
ドイツ	7,012	2,103
インド	9,530	706
日本	3,191	0
韓国	810	3
ロシア	242	0
英国	40,297	1,543

* JSTQB のサイトより引用。全ての加盟国ではなく、一部附録して掲載している。

表1: 資格取得者数 (JSTQB の Web サイトより引用)

●レベル

ISTQB には、認定資格にふたつのレベルがあります。一つは Foundation Level で、もう一つが Advanced Level です。

Foundation Level は、ソフトウェアテスト全般に関わる基礎的な範囲を対象としており、ソフトウェアテストの専門家向けと言うわけではなく、ソフトウェアテストに関わる全ての人を対象としています。

例えば、テスト技術者、テスト管理者は言うに及ばず、開発者、プロジェクトマネージャ、品質管理者、IT 部門長、経営コンサルタント、学生までと、その範囲を限定していません。Foundation Level に合格すると、より上位の Advanced Level を受験することができます。既にいろいろな国々で Advanced Level の試験が実施されていますが、残念ながら JSTQB では Advanced Level は執筆時点ではまだ準備中となっています。

表1は、ISTQB 加盟各国における、Foundation Level と Advanced Level の資格取得者数をまとめたものです。表をもとに分かるとおり、日本においては Advanced Level の試験がまだ実施されていないため、取得者数が0となっています。

●開催時期と実施データ

2006年1月31日に基礎テスト技術者トライアル試験が実施され、同年の8月28日に第1回試験が開催されました。それ以降、夏と冬の年2回実施されており、今年の2月でトライアルを含めて7回開催されています。既に、次回以降の開催日も Web サイトで発表されており、第7回試験は、2009年8月29日、第8回試験は、2010年2月13日に実施されます。

表2を見て頂くと分かるとおり、合格率は5割を超える程度であり、決して簡単ではないものの、極端に難しいというものではありません。JSTQB については、本号に受験者のレポートが載っていますので、それも併せてご参照ください。

基礎テスト技術者試験	受験者数	合格者数	合格率
トライアル (2006/1/31)	48名	25名	52.10%
第1回試験 (2006/8/28)	264名	128名	48.50%
第2回試験 (2007/3/2)	518名	317名	61.20%
第3回試験 (2007/8/25)	783名	587名	75.00%
第4回試験 (2008/2/9)	1302名	771名	59.20%
第5回試験 (2008/8/30)	1458名	657名	45.10%
第6回試験 (2009/2/7)	1411名	706名	50%
計	5784名	3191名	-

表2: 実施データ (JSTQB の Web サイトより引用)

開催場所については、前回の試験を参考にすると、北海道、宮城、東京、大阪、愛知、福岡、大分と、各地で開催されており、いろいろな地域で受験できる体制が整っているのも嬉しいところです。

また、開催地として示されていない場合、ある一定以上の人数が集まるのであれば、開催可能な場合もあるようなので、詳しくは主催者に問い合わせるとよいでしょう。

■ JCSQE (ソフトウェア品質技術者資格) ■

●概要

JCSQE (JUSE Certified Software Quality Engineer、ソフトウェア品質技術者資格)は、その名が示すとおり、ソフトウェア品質技術者(品質保証スタッフ)をメインターゲットとしている認定試験です。また、開発者やテスト技術者、プロジェクトリーダーやマネージャー、経営層など、品質に関わる人全般も対象としています。

日科技連(財団法人日本科学技術連盟)のSQiP (Software Quality Profession)が主催しており、2008年に公開された**SQuBOK (Software Quality Body Of Knowledge)ガイド**を基にした認定試験です。

●レベル

JCSQEは、初級、中級、上級の三つのレベルで構成されており、現在は、初級レベルのみ実施されており、中級、上級については、順次実施していく予定とのことですが、原稿執筆時点では初級のみが開催されており、中級以上のレベルについては、まだ情報が公開されていません。

●開催時期と実施データ

2008年12月19日に第1回が開催されましたが、第2回ソフトウェア品質技術者初級資格試験が今年の5月29日に実施される予定です。残念ながら5月についての申込みは既に締め切られています。今後は定期的に毎年5月と11月に実施する予定ですので、興味のある方は11月に受験してみたいかがでしょうか。

	受験者数	合格者数	合格率
第1回 初級ソフトウェア品質技術者(2008/12/19)	219名	77名	35.20%
計	219名	77名	-

表3: 実施データ (日科技連のWebサイトより引用)

まだ1回しか開催されていないこともあり、合格率は約35%と高くなく、比較的難しい試験と言えそうです。

●出題範囲

JCSQEの知識領域はソフトウェア品質全般に及ぶため、その範囲は非常に広いものと成ります。ソフトウェアテストに関してのみ言及すれば、その領域は、JCSQEの部分集合になります。しかし、ソフトウェアテストを考える際に品質を抜きにしては語れませんし、また部分集合といっても、決して少なくない範囲においてソフトウェアテストについて扱っています。

初級の出題範囲については、シラバスが公開されていますので、そちらを参照してください。主参考書として**SQuBOKガイド**が提示されているように、シラバスで示されているのは**SQuBOKガイド**が基になっています。また、各項目をどの程度理解しておく必要があるかという目安として、各項目に知識レベルが定義されています。知識レベルについては、次の表4を参照してください。

初級においては、L1からL3までの知識レベルが求められ、L4以上の知識レベルについては求められていません。また、概念や管理などは総じてL1からL2の知識レベルが要求されるのに比べ、より実務者向けの知識領域、具体的にはレビューやテストといった項目についてはL3の知識レベルが設定されており、より深い理解が求められています。そういった意味でも、**JCSQEの初級は、ソフトウェアテスト技術者に向けた資格試験と言えるかもしれません。**

レベル	補足説明
レベル L1 知っている	概念や用語を知っており、その概要を述べることができる。
レベル L2 知識を説明できる	概念や用語の意味や背景を理解しており、具体的な例を挙げて説明することができる。
レベル L3 概念と使い方がわかる	概念や技術の使い方がわかっており、それらを適切に選択して、限られた条件の下で与えられた課題を解決できる。
レベル L4 詳しく理解し 応用できる	概念や技術を詳しく理解しており、実用的な問題を解決するために、その知識を応用できる。
レベル L5 熟達している	実社会の複雑な問題に対して、構造を明らかにして要素に分解するとともに、解決に必要な検討を加えて結論を導くことができる。

表4: 知識レベル (シラバスより引用)

■ IVEC (IT 検証技術者認定試験) ■

●概要

IVEC (IT Verification Engineer Certification、IT 検証技術者認定試験) は、IVIA (IT Verification Association、IT 検証産業協会) が主催する、ソフトウェアテスト技術者向けの認証資格です。

IVIA は、主に IT 検証サービスに関連した企業などが集まって運営される業界団体で、活動内容の一環として、ソフトウェアテストに関わる人を中心として、「**検証スキルの明確化**」、「**スキルアップ**」、「**(テスト技術者の) 認知度向上**」を目指した認定試験を実施しています。

IVEC の一番の特徴は、他の資格認定とは異なり、**知識試験と実務試験とに分かれている**ことでしょう。これは、「IT 検証技術者に必要なのは、知識だけでなく実務スキルも必要」との考えから知識・実務試験の両方を実施しているとのこと。

また、同レベルの知識試験と実務試験の両方に合格して、初めてそのレベルの技術者として認定されます。なお、実務試験については、認定機関において随時実施しているとのこと。以降は、主に知識試験について述べます。

●レベル

IVEC は、大きい分類として、ハイレベル、ミドルレベル、エントリーレベルの3種類があり、さらに細かく分類され、合計7レベルに分けられています。

各詳細レベルごとに、おおよそのイメージや想定する人物像、技術者の名称など細かく決定しています(次項の表5を参照)。

また、エントリーレベルとミドルレベルまでが現在実施されており、ハイレベルについては未実施です。

●開催時期と実施データ

2007 年の春期からエントリーレベルの知識試験が開始され、次の 2007 年秋期からミドルクラスの知識試験も開始され、今までに4回開催されています。次の表6を参照してください。

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
知識試験 2007 春期	107/111 (96.40%)	230/246 (92.70%)	-	-
知識試験 2007 秋期	30/72 (41.7%)	52/117 (44.4%)	15/62 (24.2%)	43/144 (29.9%)
知識試験 2008 春期	28/62 (45.2%)	75/147 (51.0%)	1/76 (1.3%)	11/148 (7.4%)
知識試験 2008 秋期	56/76 (73.7%)	83/111 (74.8%)	14/63 (22.2%)	44/111 (39.6%)
計	221/321 (68.8%)	440/621 (70.8%)	30/201 (14.9%)	98/403 (24.3%)

※ データは、[合格者数]/[受験者数] (合格率%)

表6: 実施データ (IVIA の Web サイトの情報から計算)

2007 年の春期に関しては、その合格率が90%を超えています。これは会員企業のみ参加可能な試験だったためと思われます。また、実施回数も少なく、合格率などの変動も激しいため、これらの数字は参考にはならないかもしれません。

レベル	知識試験	実務試験	おおよそのイメージ (参考)	人物像 (参考)	技術者名称	
ハイレベル	レベル7	未定	未定	スーパーマン、研究、上級コンサルタント	テスト業界に影響を与えられる人物	上級 IT 検証技術者レベル3 Verification Analyst
	レベル6	未定	未定	上級 P.M、プロジェクトの最終責任者	顧客の要求を含めて、プロジェクトをみる (営業・技術・教育も)	上級 IT 検証技術者レベル2 Verification Master
	レベル5	○	○	P.M、技術リーダー	テスト工程の計画から実行まで管理	上級 IT 検証技術者レベル1 Verification Director
ミドルレベル	レベル4	○	○	テスト設計者	テストケースの設計から実行までまとめる	中級 IT 検証技術者レベル2 Senior Verification Planner
	レベル3	○	○	テスト実行からテスト設計への通過点	テストケースの設計にとりかけられる	中級 IT 検証技術者レベル1 Verification Planner
エントリーレベル	レベル2	○	○	テスト実行のとりまとめ	テスト実行をまとめ、テストケースの理解を深める	初級 IT 検証技術者レベル2 Testing Operation Leader
	レベル1	○	○	テスト実行者	テスト実行を覚える	初級 IT 検証技術者レベル1 Testing Operator

表5: IVEC のレベル (IVIA の Web サイトより引用)

●レベル

エントリーレベル、ミドルレベルともにシラバスが公開されているので、そちらをご参照ください。

エントリークラスは、主に「テストの実施」、ミドルクラスは「テスト設計」がターゲットとなっています。レベル分けが細かいだけあり、各レベルで扱う範囲は限定的になっています。

例えば、エントリーレベルが取り扱うテスト実行/不具合報告のフェーズでは、テスト実行計画、テスト環境準備、テストケース準備、テスト実行、テスト実行記録、不具合報告、テスト実行報告、プロジェクト管理などのアクティビティについて言及されています。」



図3: IVECのレベル（シラバスより引用、一部編集）

■ CSQE(ソフトウェア品質エンジニア) 資格認定制度 ■

●概要

CSQE (Software Quality Engineer Certification, ソフトウェア品質エンジニア資格認定制度) は、ASQ (American Society Quality, アメリカ品質協会) が実施している認定資格の一つです。

ASQ 自体は、**特にソフトウェア品質と限定しておらず、ありあつとあらゆる業種を対象としています。** ASQ の数ある認証資格のうち、ソフトウェア製品やサービスの品質評価および品質管理の原理を理解している専門家として認定するのが CSQE です。

ASQ が実施しているため、本来であれば英語での受験となるわけですが、日本科学技術連盟が ASQ と提携し、日本国内に於いて日本語で受験できる体制ができあがりました。

●レベル

他の資格とは異なり、CSQE にはレベルはありません。

しかし、受験資格が規定されており、受験するためには、CSQE の出題範囲に含まれている分野の一つ以上において、8 年以上、内 3 年は管理職や主任として意志決定を行うポジションとしての実務経験が必要とされます。

但し、この実務経験に関しては、大学や大学院、技術専門学校を卒業している場合に、数年単位で免除されます。例えば、大学学部卒で 4 年免除といった具合です。

●開催時期と実施データ

日本における CSQE の実績は、まだありません。2006 年に一度、トライアルが実施されてから、長らくアップデートがありませんでした。しかし、2009 年 4 月 19 日に、1 回目となる CSQE 資格認定試験が実施されることになりました。

非常にハードな試験のようで、なんと試験時間は 4 時間にも及びます。試験の形式は、マークシート方式で 160 問。また、制限付きながら電卓や参考書も持ち込み可能というからには、そのハードさの一端が垣間見えるというものでしょう。

#	項目名	出題数	キーワード
I	一般知識、行動及び論理	16 問	品質の論理と原理、標準、仕様、モデル…
II	ソフトウェア品質管理	30 問	目標と目的、方法論、監査…
III	ソフトウェアエンジニアリングプロセス	26 問	要求管理、要求工学、分析、設計、開発、保守…
IV	プログラム及びプロジェクトマネジメント	24 問	計画、追跡及び管理、リスク管理…
V	ソフトウェアメトリクス、測定、分析手法	24 問	メトリクス、ソフトウェア品質特性…
VI	ソフトウェア検証と妥当性確認 (V&V)	24 問	レビュー、インスペクション、テスト…
VII	ソフトウェア構成管理	16 問	基盤、構成識別、構成管理、構成監査…

表7: CSQE の出題範囲の (Web サイトより引用)

●出題範囲

試験の出題範囲は、Web サイトで公開されています。大きく 7 つの知識領域で構成されており、各領域から出題される問題数が定められています。また、各知識領域の補足説明には、どの程度の理解レベルが必要であるかも示されています (表 7 を参照)。

まだまだ、日本語による情報が少ない CSQE ですが、Web サイトで、サンプル問題が公開されています。75 問が含まれており、非常にやりごたえがあるサンプル問題です。

今の自分でどの程度正解できるのか、一度試しに解いてみるのもよいのではないのでしょうか、

▼おわりに

さて、長きにわたってお送りしてきました、ソフトウェアテスト関連資格試験特集、いかがだったでしょうか？ 筆者自身は、JSTQB の Foundation Level のみ保有するだけで、その他の資格については、受験したことがありません。そのため、あまり踏み込んだ内容にはなっていませんが、これから資格を取ろうというかたの助けに少しでもなれば幸いです。

また、受験したという方は、体験レポートなどを是非、編集部までお送り頂けると、感謝感激雨あられです。

最後に、各資格の特徴を一覧にした表を掲載させて頂き、本特集を終わりたいと思います。(やまさき)

略称	JSTQB	JCSQE	IVEC	CSQE
名称	JSTQB 認定テスト 技術者資格試験	ソフトウェア品質技術者 資格試験	IT 検証技術者認定試験	ソフトウェア品質エンジニア 資格認定制度
ドメイン	ソフトウェアテスト	ソフトウェア品質	ソフトウェアテスト	ソフトウェア品質
対象者	ソフトウェアテストに 関わる全ての人々	ソフトウェアの品質に 関わる全ての人々	ソフトウェアテスト にたずさわる実務者	ソフトウェア品質に たずさわる実務者
受験資格	特になし	特になし	特になし	8年以上の実務経験者*1
有効期限	永久	永久	知識試験:永久,実務試験:3年	3年間
レベル	Foundation Level Advanced Level*2	初級/中級/上級*3	エントリー/ミドル/ ハイレベル*4	なし
開催地	北海道、宮城、東京、 大阪、愛知、福岡、大分	東京、大阪	東京、大阪、名古屋	東京
開催頻度	年2回(2月・8月頃)	年2回(5月・11月頃)	年2回(4月・10月頃)	不定期(未定)
実施状況	2006年8月より(7回)	2008年12月より(1回)	2007年4月より(4回)	2009年6月より(0回*5)
受験料	21,000円	10,500円	10,500円 [エントリー] 15,750円 [ミドル]*6	42,000円*7
試験形式	マークシート 40問/60分	マークシート 40問/60分	知識試験はマークシート*8	マークシート 160問/240分
主催	JSTQB/ISTQB	日科技連(SQIP)	IT検証産業協会(IVIA)	日科技連/ASQ
シラバス	有り	有り	有り	有り?*9

*1: 内3年は管理者としての実務経験が必要。また、最終学歴によって数年単位で免除される。詳しくはWebサイトを参照のこと。

*2: Advanced Levelは未実施。

*3: 中級、上級は未実施。

*4: ハイレベルは未実施。

*5: トライアルの除くと2009年6月が初開催。

*6: 知識試験の価格。実務試験については各認定機関による。

*7: SQIP会員の場合減額。また、再試験の場合は値段が安くなる。詳しくはWebサイトを参照のこと。

*8: 知識試験はレベルにより時間と問題数が異なる。エントリーは40問/60分、ミドルは60問/90分。これとは別に同レベルの実務試験に合格する必要がある。

*9: シラバスという体裁にはなっていないが、Webサイト上で情報が提供されている。

Workshop for Accelerating

とゆーワケで JSTQB 受験してきた!

◆はじめに

WACATE-Magazine 編集部、加文字でございます。3月19日、日科技連から私の手元に「JSTQB 認定テスト技術者資格 Foundation Level 試験結果のご通知」のメールと[合格番号一覧のURL](#)が届きました。そう、WACATE-Magazine 4月号の特集でも触れられていた JSTQB FoundationLevel 試験を 2009年2月に受験していたのです。受験番号「630609」の私、加文字がどのようにして、この3月19日という日を迎えたのか、そしてその後どうなったのか、つれづれと語らせていただきます。お付き合いいただければ幸いです。

◆JSTQB との出会い

JSTQB を初めて知ったのは 2007 年の初夏の頃、研究でテストスイートの意味を調べていて JSTQB 用語集に突き当たったのが最初だと思います。テストスイートの長音「ー」が「-」に変わっていて、全く検索でひっかからなかったというどうでもいいことを何故か覚えています。JSTQB のサイトで調べてみると、この当時(2007/8/25 実施の第3回試験)はまだ、受験者数は3桁で納まっていますね。

◆JSTQB 受験の決意

そして、時は流れ 2008 年の 12 月初頭、JSTQB 第 6 回試験(2009/2/7)の受験を決意しました。約 2 年間、研究を通じてソフトウェアテストに携わり JSTQB の知識をきちんと勉強し、身に付ける土台が出来たと感じたからです。ただ業務での経験知識が無い分、現場で働いているテストエンジニアに比べて、ハードルは高そうだなと少し不安は感じていました。また、私の所属している某研究室では、JSTQB 受験費(21000 円也)に関して 1 回目だけ全額補助、2 回目以降は完全な自腹という非常に分かりやすい制度を設けていました。貧乏学生としては、なんとしても一発合格を目指したかったので、自分の今後の予定とも照らし合わせて、試験本番に向け勉強時間を十分にとれるかも考慮しました。メールの履歴をみると、12月16日にメールで申し込みを行っていました。が、まだこのころは JSTQB 参考書を開いてすらいませんでした。(汗)

その3日後 WACATE 2008 冬初日。担当セッションの自己紹介で、全然勉強していないのに、JSTQB 受験予定と宣言し、自分を追い込んでみました。あまつさえ「2月にJSTQB 受ける予定の方、手挙げてくださーい」とか「一緒にがんばりましょう!」とのたまう始末。このころからきちんと勉強されていた皆様、本当にごめんなさい m(_)m。この追い込み方は MagazineVol3 で書いた JaSST' 09Tokyo のライトニングトーク参加と全く同じ「**宣言して自分を追い込んでみる**」パターンですね。ただ、周りの人にこうやって宣言することは、自分の決意を固めることが出来るので非常にオススメです。

また宣言を聞いた周りの人もちょこちょこ JSTQB について心配して気を使ってくれる一方、「勉強してるー?」などのほどよいプレッシャーをかけてくれますので(笑) **バシバシ、受験宣言しちゃいましょう!**

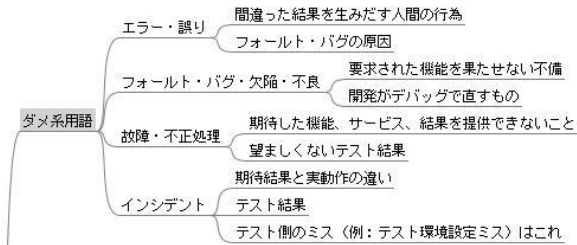
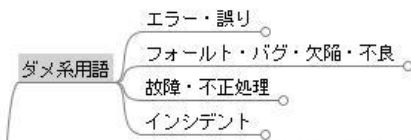


◆JSTQB 試験に向けての勉強

年末から WEB 公開されているシラバスと用語集による勉強を始めましたが、それだけでは足りないと感じました。そこで、「[JSTQB 教科書](#)」と「[演習で学ぶソフトウェアテスト特訓150問](#)」という 2 冊の書籍も一緒に利用しました。「[JSTQB 教科書](#)」はシラバスを補うような形で章節毎の学習用解説+節ごとの問題という流れになっています。シラバスに比べ図表も多く、読みやすくなっていますので、シラバスを一通り眺めた後にこちらの解説を読み込むのがお勧めです。また最後には模擬試験という形で本番と同じ形式での問題が掲載されています。また PC 上での試験シミュレーションプログラムも付属していますが、紙面掲載の問題と同じなため、学習効果は薄いと思います。勉強の締めとしてランダム出題を繰り返し、**満点を連発することで自信をつける**のが一番良いと思います。

「[演習で学ぶソフトウェアテスト特訓150問](#)」は章毎の学習用解説は無く、前述の教科書に比べちょっと難しめの問題→問題の回答と解説という流れですので、初期にはお勧めできません。一章毎のボリュームは少なめなので、教科書を読み終えた後に、**一章ずつ着実に進めていくのがお勧めです。**

また私は、次頁の図のように [FreeMind](#) を使って暗記用のメモを作っていました。特に言葉間を閉じることが出来るので、単語-意味のように枝を広げ、意味を閉じ、自分の記憶チェック等にも使っていました。



◆JSTQB 追い込み時期

2月の頭では本付属のCDやWEB上の無料試験といった模擬試験をひたすらやっていました。当日受けてみた感覚では、こういった模擬試験は本番の試験問題に比べ、簡単だった感じがあります。ここで重要なのは、何度でもやり直せる特性を活かし、満点を連発し、**自分に自信をつけること**でした。また、特に自分の経験が少なく不安だった「テストのマネジメント」や「テスト支援ツール」を重点的に、もう一度シラバスと教科書の読み込みを行いました。

◆JSTQB 試験当日2月7日

いよいよ受験当日です。受験会場は東京虎ノ門某所でした。余裕を持って開場前に到着したのですが、すでに多くの方で会場はごった返しており、**非常に強い熱気を感じました**。そして開場と共に受験部屋へとなだれ込み、自分の席に着きまずは気持ちを落ち着けました。JSTQB 試験の試験形式は4択問題が全40問、試験時間は60分です。合格ラインは非公開なのですが、巷の噂では**7割〜7割強とされています**。自分の中では30問自信を持って答えられれば、合格出来るはずだと思うようにしていました。

この開始前の最後の時間をどのように使うかは人それぞれだと思うのですが、自分は参考書を開いて最後の確認とかはせず、ひたすら30問弱自信を持って答えられる自分をイメージしていました。

◆そして試験開始!

そして、久々のマークシート式のテスト(大学受験の時以来)に緊張しながらも、いよいよJSTQB 試験開始です。**1問当たり1分10秒**と自分の中で解答の制限時間を設け、時間をこまめに見ながら解いていき、比較的余裕を持って、最後に一通り見直しまですることができました。感覚として、30問弱は自信をもって回答でき、残りは自信無しといったところでした。自信の無い問題もだいたい2択まで回答を絞ることは出来たのですが、そのあとの選択の決め手に欠けてしまいました。大体の問題はシラバスや、用語集の内容・意味をそのまま問う問題なので、**回答の決め手となる記憶力も非常に重要**だと痛感しました。

試験終了後は解答用紙だけでなく、問題用紙も回収されてしまったため、終了後に出来たことと言ったら、覚えていた不安な問題を即座にチェックすることぐらいでした。しかし今回それが裏目に出ました。チェックした2問が両方間違っていたのです。(泣 終了後はジタバタしても点数が上がるわけではないので、**自信の無い問題は置いておいて、むしろ自信たっぷりの回答を覚えてチェックして、発表までの不安を減らす**のが良かったかなーと思います。

◆運命の発表日へ

試験当日のお知らせでは、いつ頃試験結果が発表されるのかといった情報はありませんでした。そのため、試験終了の翌日や翌々日は非常に結果が気になってしまいました。が、ここで結果を気にし、心配したところで何もいいことは有りません。今回は2月7日受験で3月19日通知でしたので、1か月と2週間弱、結果発表までかかっています。(だいたいこれぐらいなのかな?) 終わったことは終わったこととして、自信を持って、ドンと構えてましょ。そして、私の試験結果ですが…

無事合格してました!

ヾ(≡ω≡)ノ ヒャッホウ

◆JSTQB 試験を取得してから

そして、約2か月後手元に合格証書の到着。これをもって私のJSTQB 受験は完全終了したのでありました。別に所属研究室から要求されて資格を取らされたわけでもありませんでしたので、JSTQB 取得前と後で何か大きく変わったかということとそんなことはありませんでした。ただ、**JSTQB 受験のための勉強を通じてのテストの概念や用語の整理は非常に役立ちましたし、何よりJSTQB 資格を習得することでソフトウェアテストに関わる者として自分に自信と誇りがちょっと持てるよう**になりました。

ただ、残念ながら、嬉々としてエントリーシートに書いた就職活動では、一度もJSTQB 資格について面接などで話題に上ることはありませんでした。(最もQC検定2級等の他の資格も話題に上ることはなかったのですが…)。近い将来、きちんとお仕事につけましたら、ぜひ資格を活かして仕事を進めたいと強く思っています。

◆今後受験される皆様へ

次回の第7回JSTQB FoundationLevel 試験は2009年8月29日(土)実施予定となっております。執筆している現在(4月2×日)、まだ募集は開始されていません。募集が開始されましたら、Magazineでもお知らせしたいと思いますので是非チェックしてくださいませ。皆様、ぜひJSTQB 資格取得へ挑戦してください! 但し、第7回試験では試験範囲の変更がシラバス(ver1.0.1→ver1.1)と用語集(ver1.1→ver1.3)と共に行われますので、特に参考書籍等利用する際にはお気を付け下さい。今後受験される皆様が全員合格しますように! (かもんじ)

ゆもつよの「はい、こちらテストिंग事業部」

第3回 そのテストをやり遂げるために何をしていますか？

著者：湯本 剛(YUMOTO Tsuyoshi)

メーカーソフトハウスで10年ほどテスト業務をした後、現在は豆蔵にてテストプロセス改善コンサル、テスト教育講師に従事。最近の話題と言えば、子供達の小学校の入学式に行ってきました。(頭だけの登場) 自分の母校が近代化していて非常にびっくりしています。趣味は酒と子供とギター。



お約束どおり、今回は「**テスト戦略**」について書いてみたいと思います。

「**テスト戦略が大事**」なんて話はよく聞きますが、テスト戦略とはずばりなんですか？という、なかなかどうして、人によって違う答えが返ってくるのがざらです。いろんな言葉と一緒にいろんな解釈があるわけですね。あー、またミスコミュニケーションです。

ということで、今回も ISTQB をたよりにして、テスト戦略とは何かを見てみましょう。

まずは、ISTQB のアドバンスシラバスと一緒に読んでみることにします。まだ、日本語訳が出ていないので、英語の原文にチャレンジしてみます。(http://www.istqb.org/download.htm)

The test strategy describes the organization's methods of testing, including product and project risk management, the division of testing into levels, or phases, and the high-level activities associated with testing.

これは、アドバンスシラバスの「3.2.2 Test Strategy」の冒頭の一節です。最初の一文は、「**テスト戦略とは、組織のテストのやり方達 (Methods) です。**」と書いてありますね。そして、その「やり方達」の中には、「**プロジェクトとプロジェクトのリスク (が顕在化しないように) 上手くやりとげること (management)**」と「**テストを複数のレベルや段階に分割すること**」と「**テストにまつわる上位水準の作業達 (high-level activities)**」が含まれているのだそうです。

要は、「**テストのやり方**」に関して説明したものが**テスト戦略**だということです。ただ、そのやり方も何でも良いわけではなく、いろいろな事が考慮されていなければならないと言っています。まず、第一に「**プロジェクトとプロジェクトのリスク管理**」が入っています。「**この機能がバグったら大惨事だ、テストケースを増やしすぎると上手回らないかもしれない...**」

なんて思ういろいろな**リスク (心記事)**が現実の問題として大変なことになってしまわないようにするために、どうすればよいか考えた**テストのやり方**であるのが**戦略**だということです。こうきくと、リーグであれば誰も考えていることであり、そんなに特別なことではないことがわかりますね。

二番目には、「**テストレベル、もしくはテストフェーズに分割すること**」が**テスト戦略**に含まれるとなっています。テストレベルを ISTQB の用語集でみると以下のように書いてあります。

A group of test activities that are organized and managed together. A test level is linked to the responsibilities in a project.

組織的に管理されるテスト作業のグループ。テストレベルはプロジェクトの責任に対応する。

「**組織的に管理されるテスト作業のグループ**」っていうとちょっと分かりづらいのですが、分かりやすく翻訳すると、**体系的に整理**されていて (**organized**)、かつ**上手くやり遂げる事が出来る**様に (**managed**) **まとめたテストの作業のグループ (a group of test activities)** のこと、となります。また、「**プロジェクトの責任に対応する**」というのは、「**要求分析**」「**仕様定義**」「**設計**」のような活動に対応するということです。この「**テストレベル**」と言う用語の出展元である、「**テストプロセス改善**」という本には、「**テストを効果的に整理するためには、要求、機能仕様、技術仕様などにかかわるいくつものレベルのテストを用いる**」のが**テストレベル**の意義であると言っています。

一方、**テストフェーズ**を ISTQB の用語集でみると以下のように書いてあります。

A distinct set of test activities collected into a manageable phase of a project,

e.g. the execution activities of a test level.

テスト活動をプロジェクト中で管理(マネジメント)しやすいフェーズにまとめた組み合わせ。例えば、あるテストレベルの実行活動。

テストレベルのポイントは、**開発の責務と対になっているかどうか**であり、テストフェーズのポイントは、**管理可能なように活動をまとめているかどうか**です。「**ユニットテスト、統合テスト、システムテスト**」というグルーピングをしても、それを**テストフェーズ**とは呼べるかもしれませんが、**テストレベル**と呼べるかどうかは、**開発の責務と対になっているか**にかかっています。

なんか脱線気味ですが、ページ数的に限界にきてしまったので、今回はここまで。次回は**テスト戦略の続き**とします。

WACATE Short Short vol.1

開催記念♪

Report!

■はじめに

先月号 (vol.4) で突如告知された「WACATE Short Short vol.1」。読者の皆様もきっと興味津々だったのではないのでしょうか？ この記念すべき第一回目には、WACATE-Magazine 編集部の方々も一般参加。そんなわけで、当日残念ながら参加出来なかった方のために、当日の様子をダイジェストレポートしたいと思います！

■WACATE Short Short とは？

WACATE Short Short (以下 WACATE-SS) は一言で書くと「WACATE ファンによるオフ会」です。WACATE2008 冬や今年 6 月に開催される WACATE2009 夏のような通称 WACATE 本会は WACATE 実行委員会による企画運営ですが、この WACATE-SS は企画から運営にいたるまで、**そのすべてを (自称) WACATE ファンが行います。** WACATE 実行委員会は、WACATE ファンからの企画提案を受け、運営に対するノウハウの提供など各種支援を行います。それから、よく見ると「vol.1」という文言がありますが、これは「**今後も継続して開催していくよ**」という意味の表れです。

■WACATE Short Short vol.1 の概要

記念すべき第一回目となる WACATE-SS vol.1 は 2009 年 4 月 18 日 (土) に TKP 表参道ビジネスセンターにおいて開催されました。

今回のお世話役は川西俊之さん@いいだしっぺ、ときゅーみんさん@お手伝いの二人。WACATE 実行委員会からアドバイザーとして池田暁@WACATE 実行委員長が参加しています。

Vol.1 のテーマは副題に「青年テストエンジニアの主張：ライトニングトークス大会」とあるように、ライトニングトークスがメインのイベントです。参加者＝発表者というしぼりがあり、参加料 1 万円を払って発表者として参加するという、一風変わったしかけがとられています。ただ、この金額、会場代・昼食代・懇親会代が含まれており、実はかなりギリギリの金額設定だったりします。まあそうはいつでもやはり 1 万円。酔狂な、いやいや熱い思いを持った方々が集結し、当日は相当な熱気に包まれることになりました。

■当日のプログラム

当日は以下のプログラムで進行していきました。

- ・オープニングセッション
- ・プログラム説明< の進め方説明
- ・青年の主張 (午前)：ライトニングトークス&質問
- ・質問タイム 午前 ALL
- ・フィードバックタイム
- ・青年の主張 (午後)：ライトニングトークス&質問
- ・質問タイム 午後 ALL
- ・フィードバックタイム
- ・休憩
- ・特別セッション「若手が WACATE になるために」
- ・クロージングセッション
- ・分科会という名の懇親会

本レポートではライトニングトークスのダイジェストを中心にお届けします。是非当日の雰囲気を感じ取ってください！

■挨拶

さすがに熱い参加者たち。10 時前には参加者全員がすでにきっちりと席に着いています。今回のお世話役である川西さんがいよいよ WACATE Short Short vol.1 の開始を宣言。



<写真1 ピースサインを向ける川西さん>

ですがそこは WACATE です。カメラを向けられた川西さんがしっかりとピースサインを向けるなど、とてもリラックスした雰囲気での始まりでした (写真1)。

■オープニングセッション

オープニングセッションでは、池田さんがWACATE 実行委員会代表という立場から今回のWACATE-SS1 開催に対しての祝辞がありました。「WACATE-SSはWACATEファンによるオフ会です。今回はライトニングトークス大会という形態をとっていますが、たんなる飲み会でもいいし、ハイキング大会でもなんでもいい。WACATE で大切にしているキーワード、スキルアップやコミュニケーションといったものに沿ってればなんでもアリです。是非いろいろ提案して、幹事デビューしてください」という言葉が印象的でした。

■プログラム説明< の進め方説明

続いて川西さんよりプログラムの説明です。冒頭、申し訳なさそうに「今回銅鑼を叩くアシスタントさんはいません... その代わりに...」と登場したのはなんと**ゴング!** (写真2)



<写真2>ゴングの登場!

カーン! で試合 (発表) 開始. カーン! カーン! カーン! でノックアウト (時間切れ) というルールが発表されました。試し打ちした音に会場は一気にボルテージがアップしました。確実に2度は温度が上がった気がしました。

細かい説明が続きます。発表は5分、質問タイム5分で進めていくとのこと。質問タイムでは質問が出ない場合は主催者側で当てるのでちゃんと聞いてくださいと釘が刺されました。午前と午後の発表の終わりにはスライドバックタイムが設けられ、発表者へのフィードバックを付箋紙に書いてもらうしかけも準備されました。自分の発表以外の時にも一瞬たりとも気が抜けない、まさにドSなイベントの様相を呈してきました。

ただし、頑張った参加者にはご褒美も用意されました。今回は**「役に立ったで賞」, 「がんばっているで賞」, 「面白かったで賞」**の三賞が用意されました。参加者からの投票の結果、各賞が決定されることとなります。

■青年の主張 (午前) : ライトニングトークス&質問
では午前の発表を議事録的にダイジェストでレポート! (ライトニングトークスなので、勢いをできるだけお伝えしたいので)

●川西さん「WACATE Short Short をやってみた」



発端は WACATE-SNS の池田さんの日記で「ね、川西さん」と発起人に名指しされたことがきっかけです。

まず会場探しをしたのですが、2 回失敗してこの会場は3回目で決まりました。更に人生で初めて家にゴングが届き、その料金の払い込みを行ったおかげで食事が塩と豆腐になってしまいました。

今回の WACATE Short Short のポイントは2つ、**「やってみる」**と**「話してみる」**ですが、これについて少し話をさせていただきます。

「一步踏み出せばやる気が出てくる、踏み出せ! ワカテ」

あるブログに載っていたことですが、よくやる気があるからやると言われていますが実はそうではなくて、**やってみるからやる気が出る**のだと言う理論があります。やる気がある人はとにかく手足を動かしてみる人が多いと書いてありました。ネタがなくてもまず参加してみる事がやる気につながるんです。

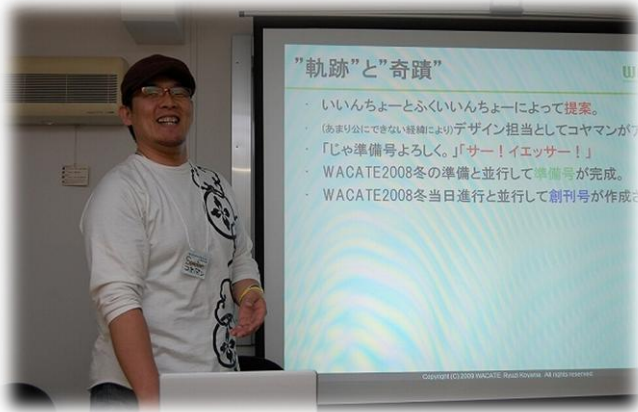
「どんどん話そう語ろう。それが楽しくなってくる。飛び出せ! ワカテ」

これもブログに載っていたことですが、話してみても初めて分かることは**情報の密度がすごく濃い**ことです。話すことは緊張しますが、自分の声が相手に聞こえているのが生で分かる。それがうれしい。と書いてありました。自分の考えを整理するためにも、相手の意見を聞くためにも、どんどん前に出て話していきましょう!

「一步成長した WACATE に出会いたい」

「やってみる」と「話してみる」、これらってワカテに必要なもの。ではみなさん今日一日を盛り上げていきましょう!

●コヤマン「WACATE-Magazine のキセキ★」



WACATE-Magazine の立ち上げ

WACATE Magazine は現委員長と副委員長の雑談から生まれました。内容はご存じの通り、学校の文化祭のノリで作っています。

WACATE-Magazine の軌跡（一部奇蹟）

- ・ WACATE2008 冬の準備と並行して準備号が完成。
- ・ WACATE2008 冬終了後、気合！で創刊号完成。
- ・ JaSST09 Tokyo に参加後、有給取って実質 4 日間！で vol.2 完成。
- ・ JaSST09 Tokyo のセッションのまとめを vol.3 で公開。
- ・ 偶然（必然？）全員がセミナーに参加したりなどで vol.4 を公開。

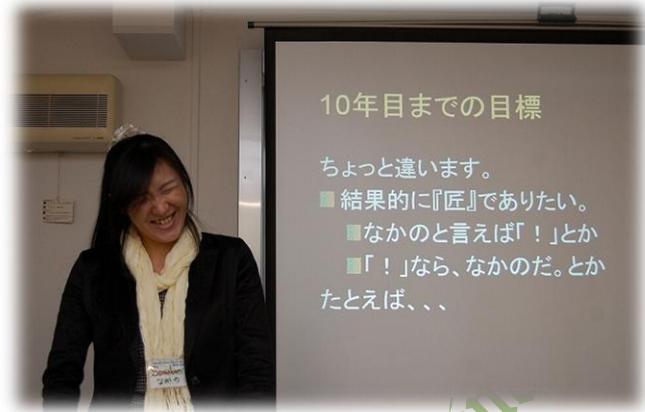
Magazine をやるようになって

Magazine 編集部員のメリットはこんな事が挙げられます。

- ・ 「楽しい雰囲気

良いとこ盛り沢山で楽しい WACATE-Magazine, 手伝ってくれる編集部員と紙面を盛り上げてくれる投稿記事を鋭意募集中です！

●中野さん「WINDING ROAD ～私が目指す匠」



匠と呼ばれる人達

私の会社にはトップレベルの技術ベンダーがおりまして、自らのモットーとして「人こそが品質を作る」「人を育てる」「同じ失敗を繰り返さ（せ）ない」「自発的な取組みを促す」「活きるチーム」「人を活かすチーム作り」と言ったことを実践しています。そんな人たちを会社では「匠」と呼んでいます。

現在「匠」でない私に不足しているもの

- 技（技術、技量）：開発的なスキル、フトコロの広さ（度量）
- 知（知識、知恵）：開発的なスキル、メンタルケア
- 和（輪）：メンバーからの信頼・尊敬
- 経験：成功と失敗と再形成、開発経験、営業、折衝

現在の私にあるもの

- 技（技術、技量）：テストエンジニア
- 知（知識、知恵）：JSTQB など資格、漢検準 2 級、興味・イキオイとアイデア
- 和（輪）：コミュニケーション、メンバーとの近距離感
- 経験：カスタマーサポート、ヘルプデスク
↑一番ユーザに近い位置にいた経験を活かしたい。

私に求められているもの

- ・ ソフトウェア品質
- ・ 人マネジメント、人が作る品質
- ・ チーム力
- ・ 等身大のリーダー：一緒にやる。できる、やれると思える。
- ・ ノリ、イキオイ、インスピレーション

10年目までの目標

『匠』になるのではなく、**結果的に『匠』でありたい。**中野と言え「！」とか、「！」なら中野だ、とか。たとえば盛り上げ役、仕事も遊びも飲みもマジでやります。7K（「規則が厳しい」「休暇がとれない」「化粧がのらない」...）なんてぶっとばせ！

●佐々木さん「今のスタイルとこれから目指すところ」



今の自分のスタイル

今の自分のスタイルは下記になります。

- ・バグは報告するもの：指摘される前に報告
- ・オンラインテスト：商用環境の処理結果を重視
- ・全ての工程でテストを意識：見積もりから出荷後の障害対応まで
- ・テストケースを再利用しない：成長した自分で作り直す
- ・静的テスト重視：ソースレビューを中心に、熟練すれば動的テストの領域も対応可能
- ・**量は質に勝る**：量は安心感と自信、意図しない何かをもたらす

量は何をもたらす？

- ・システムの動作を多く体感できる
- ・見落としや確認ミスを取りかばりやすい
- ・意図しない動作に遭遇しやすい
- ・量をこなすノウハウが蓄積する
- ・テストケースの変動に対応しやすい
- ・結果への自信と安心感が得られる
- ・地力が向上（1つ1つの作業が効率化）

量に対応するためのアプローチ

- ・テストケース・データを素早く作成する
- ・テストの実行と確認を簡単にする
- ・集中力の高い時間に作業する
- ・他の作業を断って時間を確保する
- ・各工程を並列に走らせ期間を延ばす
- ・見積り段階でテスト工数の比重を上げる
- ・テスト環境を占有する
- ・決意する

テストに影響する6要素

自分なりにテストに影響する6要素を考えてみました。
学問：テストの網羅性、テストケース・テストデータの充実さ、テスト技法など理論的な裏づけを持つ質に関わるもの

費用：テスト工程に関わる要員、見積り工数、残業・休出、端末・ツールの導入費用など費用に関わるもの

期間：テスト工程に費やせる日数、テスト可能時間・時期、納期などタイミングや期間に関わるもの

特性：テストの準備、実行、確認が容易にできるなど、検証対象が備えている特性に関わるもの

資源：ドキュメントを作成するソフトウェア、テスト端末、フロアレイアウトなど資源に関わるもの

スキル：テスト工程を遂行する上での担当者の生産性・ツール習熟度といったスキルに関わるもの

そして上記の要素から一つ今年の目標を決断するならば、**自分にはもっと『学問』が必要だ！**

保守エンジニアからテストエンジニアへ

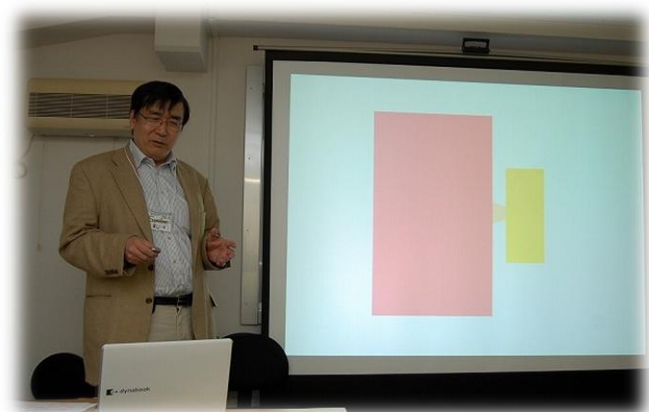
今後は保守エンジニアからテストエンジニアの領域へ成長を進めていきたいです。

- ・障害対応 → テスト技法
- ・システム維持、メンテナンス → カバレッジ
- ・全工程担当 → テスト方法論
- ・プロジェクト全体管理 → テスト工程管理
- ・顧客折衝 → 障害管理スキル
- ・汎化 → 特化

やり遂げるには、気持ちが重要だ

頑張れ！出来る！絶対出来る！気持ちの問題だ！そこで諦めるな！積極的にポジティブに頑張れ！新しいスタイルを作ろう！**We can change！！**

●永田さん「永田です」



昔話

昔のソフトはホントに小さくて、アセンブラとか、コードは24Kとか、そういうレベルで設計からテストまで**一人の開発者で担当可能でした。**

今のソフトは数百万行以上で一人ではテストしきれなくなり、社内のテストエンジニアに依頼するようになりました。その後もさらにコスト削減の影響で外注に出すようになりました。

テストのボリュームも組合せテストを実施する頃から爆発的に増えていきます。

社内ではテストを管理できなくなり外注に仕様書を渡して後は任せるようになり、更に不況で外注も今までより安いところに依頼するようになりました。

現在の状態

現在ではテストをどんどん外に出して社内の担当者是一人で外注の管理をすることも珍しくなくなり、**社内と社外のつなぎの部分**が細くなっています。

そのような管理が十分出来ない状態では、製品品質の問題が起きるようになってきました。

担当者のスキル不足に起因する問題は下記が挙げられます。

- ・外注に適切な指示ができない
- ・テストケースが多くてレビューしきれない
- ・テスト計画書（品質メッセージ）が必要だが担当者にスキルが無くて作成またはレビューができない。

勝負の鍵

社内の担当者が外注に対し仕様書を丸投げすることなく、テスト計画書の形でテストの目的やアプローチと言った品質メッセージを外注に示す必要があります。またテスト計画書（What）のベースになるのはテスト設計書でありテスト技法（How）です。また外注がテスト設計書を作成する場合でも、レビューするにはテスト技法が必要になります。

何が言いたいのかというと、今後の勝負の鍵はテストプロセスとテスト技法であるということです。**不況だからこそ、これからのWACATEは技を磨いていきましょう！**

■青年の主張（午後）：ライトニングトークス&質問では、引き続き午後の部をダイジェストでお届けします。午後也非常に熱いトークの連続でした！

- きゅーみんさん「私にとってのWACATE」



「試せる場」、 「挑戦できる場」

2008年夏のWACATEは仕様書を元にテスト計画やテストケース等をグループ演習で考える場でした。他のセミナーと違い、利害関係なしで自分と同じ興味を持っている方々と演習することで、本で読んだ知識の実践やいつもと異なるポジションの担当等、自分にとっての挑戦を実行できると考えました。

その時は普段とは異なる「ふりかえり方法」を提案し、快くグループのメンバーに協力してもらえ、**読書や一人で試す以上の経験値を得ることができました。**

チャンスを掴む

2008年冬のWACATEでは終了後にフリーペーパーへの寄稿の依頼が来ました。そのチャンスを逃さずWACATE参加者から見たWACATEの感想や体験談を、**WACATE MagazineとEM ZEROの二誌に寄稿することが出来ました。**今回も手を挙げることでWACATE Short Shortのお手伝い役と発表者に挑戦することが出来ました。

まとめると、私にとってのWACATEとは、『WA』若手でも『C』挑戦できる場！『A』熱い思いで『TE』提案できる場！です。

- おたべさん「常在せんじょうのテストのすすめ【番外編】テスト技法な魚達」



始めに

今回の発表はWACATE Magazineに掲載していただいた「常在せんじょうのテストのすすめ」の番外編で、今まで釣ってきた魚の中から、テスト技法にマッチした魚達を紹介していきます。

同値分割な魚「スズキとブリ」

スズキとブリは大きさによって名前が変わり（出世魚）、同値分割な魚と呼ぶのにふさわしいでしょう。あるいは境界値分析な魚かもしれませんが、境界が地域や釣った人の主観で変わってくるのでここでは同値分割としました。

境界値分析な魚「アジとカサゴ」

アジを確実に釣るにはちょうどアジの頭上に仕掛けがくるように高さを調整しなければいけないのですが、わずかに上過ぎてても下過ぎてても釣れにくくなるため、釣れる境界線を探すことがとても重要になってきます。

アジが垂直方向に境界値持つのに対し、カサゴは水平方向に境界を持ちます。あまり動かないので目の前に仕掛けを落とさないと釣れません。

デシジョンテーブルな魚「ウナギ」

釣り場が会員制クラブの敷地内にあり、釣りに行くには3つの条件 ①社外の釣り仲間（会員）の都合、②連絡を取れる社内のハマちゃん（同僚）の都合、③私の都合、の3つが成立する必要があります。

探索的テストな魚「カワハギとフグ」

素人お断りの超絶エサ取り名人で、釣り人の腕前がかなり重要になってきます。

発表資料のハリセンボンには、**試行錯誤の末に釣り糸をぐるぐる巻き付けて釣りました。**これが釣りと呼べるのか微妙ですが、使用した道具が釣り道具のみなので、多分釣りです。

●井芹さん「プログラマもQAテストを学びましょう」



前置き

プログラマの仕事って何でしょうか？ プログラムを作ることかもしれませんが、大抵は**引き継いだコードに対して要求仕様を満たすように改修することが主な業務になります。**

その改修時に一番苦労している点は何かと言うと、問題が潜んだやっかいな“レガシーコード”を扱わなければいけないことです。ありがちなレガシー開発としては、扱うのが恐ろしくて皮相的な改修を続けていくうちに、“レガシーコード”が巨大になり地獄に堕ちていきます。

対抗策としてリファクタリングやテスト駆動開発を行うことでコードの安全性や妥当性を確保していきます。そこでの問題はユニットテストを簡単に実施できない場合があることです。

例えば組み込みの場合、処理系定義が多かったりハードウェア依存が多いことにより、単体テスト実施に制約が出てきます。そのため改修時にテスト可能になるようコードの修正が必要になり、またテスト不能な領域が残ってしまうことでリスクがコードに残ってしまいます。

単体テストの制約を改善するには、より外部からのテストによって挙動の透過性を保証することで、当初の目的が満たされます。

外部からのテストを行う際のハードルは、システムテスト・実機テストで特定コードの挙動の透過性・妥当性を証明すること。漏れなく評価できること。開発工程が遅れないよう最適化されていることが挙げられます。しかしこれはコーディング技法としてのユニットテストの範疇を超えています。

そこで、プログラマの方々も実装技法としてQAテスト技法を学びましょう！ テスト計画の作成やテストの最適化、テスト用ツールやカバレッジの分析といった**QAテスト技法を身につけることで、単体テストの不足分を補うことができます。**

で、以上が前置きです（笑）。

本題

垣根を越えて、相互理解を深めましょう！ テスターとプログラマの間に妙な垣根が来ていませんか？ たとえ責務や工程が違うという制約を付けても、お互いにとって有益な蓄積を持っています。また垣根があっても**テスターとプログラマの間の目標は一つ、「良いソフトウェアを効率的に作る」**のはずです。さあ、目標に向かって理解・コミュニケーションを深め、相乗効果を発揮していきましょう！

●鈴木さん「自己紹介とご相談」



3つの問題

大きく3つ仕事の進め方で問題を抱えているので、同じような問題を以前抱えていて解決した方がいれば相談に乗ってください。

コミュニケーション不足について

ご相談したいことの一つは、現在開発側と品質保証側が物理的に分離され、コミュニケーションの場が無いことです。普段の連絡も電話やメールになってしまい、問題のある情報ほど伝わってきません。公式の場で聞いても「大丈夫、大丈夫」と答えが返ってくるだけで、結局は出荷検査直前や検査中に問題が発覚し、デバッグ作業に巻き込まれていきます。

そんな中、たばこを吸う人だけは喫煙室でうまく情報を入手できているようなので、たばこを吸わないし酒もあまり飲まない私としては、**どうすれば非公式の場で問題の情報をうまく入手することが出来るか**ぜひお聞きしたいです。

勉強会について

ご相談の2番目は社内での勉強会のとりまとめ方です。この場に参加されている皆様のように全員モチベーションが高いわけではないので、**どうすればモチベーションを上げることが出来るのか**、皆様に経験があれば是非教えてください。ダメだった場合についても是非聞かせて欲しいです。また勉強会のネタがあれば教えてください。

不具合の指摘方法

3番目は**不具合の指摘方法**についてです。プログラマによっては「俺の作ったプログラムにバグは無い!」と指摘を嫌がる人がいて、不具合であることを納得してもらうのにかなりの時間を費やしてしまうこともあります。また強く指摘するとやる気をなくしてしまう方もるので、開発者の機嫌を損ねずかつモチベーションも下げない指摘の方法があれば是非教えてください。あるいはカチンと来た一言やこんなテスト担当者は嫌だったなどの情報があれば教えてください。

●草川さん「経験ベースのテスト技術向上方法」



始めに

おそらく参加者の皆様の中では一番の若手で、これまで携帯電話の評価を2年間経験してきました。

今回発表する経験ベースのテストとは、テストケースが用意されていない範囲のテストのことを指し、テスト結果には作業者のスキルが大きく影響してきます。

経験ベースのテスト技術向上方法は大きく3つあると考えています。1番目は「人の振り見て、我が振り直せ」、2番目が「彼(敵)を知り、己を知れば」、3番目が「二度あることは三度ある」です。

「人の振り見て、我が振り直せ」

同じテストチームのメンバーが行っているランダムテストのやり方を参考にして、自分の場合ならどうテストするか考える教材としました。実際には自分で**ランダムテストをする前にまず周りを観察**し、自分のテストに活かしています。

「彼(敵)を知り、己を知れば」

評価対象物の現状を知り、自分のテストスキルを知れば、効率の良いランダムテストが出来ます。実際には VerUp 時の**修正箇所から他に影響する範囲の類推や、最新の不具合発生箇所の把握等**をし、今まで自分が経験したテスト内容と照合して見ると、単にランダムテストを行う場合よりもバグを見つけやすくなりました。

「二度あることは三度ある」

過去を含め同様の不具合が二度あるなら、三度目が起こる場合が本当に多いです。実際の例では不具合表を分析して、**不具合が多発している機能を周辺まで含めてランダムテスト**するようにしています。

まとめ

単なる「場当たりのテスト(アドホックテスト)」だと、偶然不具合を見つけることが出来ても、再度見つけることは出来ないかも知れません。しかし、上記のテスト技術を知っていると不具合の推測が出来るようになり、バグ発見数が増えるかもしれません。経験が浅くても、テストに意識的に取り組むなら不具合は見つけやすくなります。

もし、不具合が見つからないとしても諦めないで下さい。**その経験は次回のテストに活かすことが出来ます。**

●山崎さん「WACATEのあゆみ」



WACATE が始まって早くも一年以上経過したので、年表を作ってみました。参加者の皆様は幾つ分かるでしょうか？

WACATE 年表

- [07/09/某]ソフトウェアテストワークショップ実行委員会旗揚げ
- [07/11/21]WACATE Web サイト開設
- [07/12/15~16]WACATE 2007 開催
- [08/01/30]JaSST'08 東京の LT に参加して WACATE を紹介
- [08/04/某]WACATE のドメイン変更
- [08/05/31]WACATE SNS 開設
- [08/06/14~15]WACATE 2008 夏 開催
- [08/09/20]WACATE ブログ スタート
- [08/12/20~21]WACATE 2008 冬 開催
- [08/12/31]WACATE Magazine 創刊
- [09/01/24]ソフトウェアテスト PRESS Vol.8 に寄稿
- [09/01/28]JaSST'09 東京の LT に参加して WACATE を紹介
- [09/01/29]JaSST'09 東京でミニワーク&パネルセッションを実施
- [09/01/31]WACATE Magazine Vol.2 発行
- [09/03/03]WACATE Magazine Vol.3 発行
- [09/04/01]WACATE Magazine Vol.4 発行
- [09/04/18]WACATE Short Short Vol.1 開催

昨年末から活動がより活発になり、今回のように WACATE ファン主導による WACATE Short Short まで開催されるようになりました。これからも主催者や参加者と言った立場に関係なく、**フラットで楽しめる場として続けていきたい**のでよろしくお願ひします。

●杉田さん「WAはWACATEのWA」



WACATE 参加者としてこの一年の振り返りを発表していきます。

井の中の蛙

'07 年は秋頃まで開発・試験・PM と開発プロセスを経験し、海外企業と一緒に実行した総合試験を経験することで、社内と社外の違いを知るようになりました。その頃は井の中の蛙状態で、今のままじゃいけない気がして悩んでいました。

自分以外の世界を知る

'07 年冬の TEF で WACATE を知り、**非常に悩んだ未参加を決意**します。そこで様々な人達と話をすることで、自分が知らない世界を知ることができました。

'08 夏の WACATE では徹夜する人まで出るハードな演習で、すごい人達と様々な困難の中で学ぶことが出来ました。ポジティブな人が集まっているので、社内の研修より数倍濃い演習内容となりました。

'08 年冬の WACATE は楽しみで指折り数えていました。そうして**井の中の蛙はどんどん外の世界を知るようになったのです**。

最後に

僕は WACATE の言葉が大好きです。「ぼくたちは加速する」「どっぷりつかろうテスト設計」「自分が変われば、世界が変わる」。WACATE2009 夏でまたお会いしましょう！

■追加発表

これで、午後のまとめの質問タイムとフィードバックタイムが終了。ですが、非常に順調にプログラムが進行していったため、15分程時間の余裕がうまれました。そこで急遽追加発表者を募集し、小田部さんが沖縄の魅力をもつた紹介した(5分時間切れ)後、惜しくも無情のゴングを聞いてしまった草川さんと佐々木さんが再度発表。見事リベンジを果たしました。

■特別セッション

一日の最後は池田さんから「若手がWACATEになるために」と題した特別セッションが行われました。なんでも、「どうせ会場にいるなら、なんか話せ」と言われたらしく、突然しゃべることになったとか。

では、この特別セッションについてもダイジェストでお届けします！



本日は、私が本格的に社外活動をするようになって5年間を振り返りつつ、実践してきたことややって良かったと実感を持っているものについてお話ししたいと思います。スキルアップを考えている皆さんにひとつでもヒントになるようなことがあれば幸いです。

子供の頃に得た技術基盤

基本的には昔は変な子供だったと思います。ですが、変であったからこそ、早くに技術基盤が構築できたと考えています。取組んだことはいろいろありますが、次のようなものが一番効果的であったと思います。

- ・ゲーム(ドメイン知識の獲得)
- ・読書年間300冊以上乱読(汎用的知識の獲得)
- ・パソコン通信(文章力・表現力・礼節の獲得)

ゲームと私

ゲームに関してはとにかくディープだったと思います。そもそもゲームにはまったきっかけは近所のお兄さんが遊ばせてくれたApple II版のWizardlyでした。モニタの中に無限の世界を見ました。

ゲームをテクノロジーとして最初に意識したのはコナミさんのGRADIUSが最初です。GRADIUSが使われていたバブルシステムという基盤があったのですが、それまで使われていた基盤から表現力が飛躍的に向上し、衝撃を受けました。なぜこれだけ違いがあるのだろうと原因を知りたくなり、基盤や搭載されているチップについて興味を持ち、スペックマニアになりました。また「この背景の処理はどうやってるんだろう？」みたいにある処理を実現するための方法を空想することが好きで、それも技術探求のトレーニングになっていたのだと思います。

興味があるものは徹底的にやっておく。

とにかく凝り性でした。ですが、それがすごく役に立っています。この幼児体験から得られたものはいろいろあります。

- ・何事もあきらめるくらい徹底的に行うと血肉になる。
- ・根本を探究する癖をつけておく
- ・なぜ、絵が動くのか、音楽がなるのか、など
- ・これらは組み込み系開発で、すごく役立っている。
- ・凝り性であったことが早くに技術基盤を確立するに至った。

皆さん、子供が生まれたらマニアックになるように育てましょう。きっと大人になったときに効いてきます。

大学生時代に得た技術基盤

次に、ちょっと時間は飛びますが、学生時代のお話をします。特に印象的だったのは大学院生時代でしょうか。

- ・大学院生時代、大学院生室で様々なコミュニティに参加している人間がいた。
- ・現在、この人はLinuxのあるモジュールのメンテナ。
- ・初めて会ったときに、てんでかなわないと思った。
- ・悔しい
- ・なんでそんなにデキるのか？
- ・彼がやっていることを観察してマネた。
- ・彼が読んでる本は全部読んだ。
- ・参加しているMLに参加した。
- ・書いている日記を全部読んだ。
- ・デキるヤツが日ごろ何を実践しているかを理解し、できるだけ近づく努力をした。
- ・知識が付くことで、彼と話すための技術的基盤が出来上がった

盗めるところからは徹底的に盗む。

このことから次のようなことが大事ではないかと思
います。

- ・身近なところでできる人間がいれば、よく観察し、マネをしてみる。
- ・そのうえで、ソイツがまだやってないことを見つけ出し、実行する。
- ・追いつく努力と追い越す努力
- ・そのために何をすべきかを深く考える。

「xxx さんみたいになりたいな」と願うだけではダメなんです。なりたいたら、なるための努力をしなければなりません。そしてなるための最初の一步は「よく観察する」ことだと思います。皆さんも職場のデキル人を観察してみてください。きっと何かできるようになるためのヒントがあります。机の上に並んでいる書籍を見るだけでも効果はあると思うので、できることから初めて見て下さい。

JaSST 実行委員になったきっかけ。

さて、ではいよいよ JaSST 実行委員時代に話は突
入していきます。

- ・XP 勉強会に参加したとき、懇親会で目の前に座っていたのが和田@富士通さん。このとき親指 Shift の話で盛り上がった。
- ・勉強会に参加するのは大学院生時代の経験、親指 Shift については子供の頃の体験が生きていた。
- ・ちょうど設計→QA に異動したときに JaSST 04 に参加したら、実行委員として和田さんが参加していた。
- ・「実行委員どう？」と言われ、「面白そうっすね。いいですよー。」と答えた。
- ・その後、一週間後に打ち合わせへのお誘いのメールが来た。

急転直下の展開で、当時はびっくりしたことを今でもよく覚えています。

誘いがあつたら断らない

このとき一番実感したのは、なんでもやってみると
いう姿勢が大切ということです。

- ・お誘いなどがあつた場合は一瞬「大変そうだな」と思っても、思い切って飛び込んでみる。期待感があるから声をかけていただけ。
- ・自分から飛び込むことも大事。XP 勉強会も、TEF も JaSST 実行委員もすべて、なんだか面白そうだなと思いついて参加。

チャンスは一度逃すと二度と巡り会えないかもしれ
ません。人に声を掛けるときはなにかしらの期待感
があるものです。お誘いを断ると言うことは、期待を
裏切るということでもあります。

今やっていること。

では、現在私が実践していることを紹介します。

- ・5カ年計画、3カ年計画、年間計画をたてる
- ・一年のふりかえりと元旦の計を大切に考える。
- ・自分への戦略的投資予算を取る。20代ではすべての収入を自己投資に使った。セミナーや書籍代。それから、飲み会代。
- ・今自分のやっていることをデカくとらえる。日本や世界のために活動しているというプライドを持つ。
- ・産業界のために時間と労力をささげる。これは今まで育てていただいた先輩達への恩返しである。

池田語録

さて、振り返りはこれまでとして、主に深甚に向け
て書きためている通称「池田語録」からいくつか紹介
します。参考になればと思います。

- ・何かをなすなら覚悟を決めよ
- ・誘いは断るな。
- ・「やるやる詐欺」はやるな。
- ・プライベートと折り合いをつけよ
- ・率先して汗をかけ。手柄だけを期待するな。
- ・人をさげすむな。
- ・言葉は人をうつす。
- ・知り合いは友達ではない。
- ・朗らかであれ
- ・常に人から見られている意識を持つ
- ・積極的に人と交われ
- ・仕事以外に打ち込めるものを持っておけ。

皆さんも、自分の語録を作ってみるといいですよ。
自戒にもなります。

最後に

これまでの話になにか少しでも感じる場所があるな
らば、是非自分の人生の振り返りをおすすめします。
きっと何かみえてくると思います。

そして、自己評価を常に行い、よりよい方向にいけ
るように、日々の努力を行っていきましょう！

■クロージングセッション



最後にトークスへの投票結果の発表が行われました。三賞の受賞者の喜びの声をお聞き下さい！

役に立ったで賞：永田さん

「ありがとうございました。栄えある第一回のショートショート、一生懸命やりました。本当にありがとうございます。私よりも2まわりも小さい方からも…」カーン（時間切れ）

がんばってるで賞：草川さん

「ありがとうございます。自分自身、発表が5分を超えてしまいましたが今回、WACATE に夏と冬には参加していないのですが次は是非参加したいです！」

面白かったで賞：小田部さん

「本当にありがとうございます。5分にまとまらずすみません。本当はパソコンの中に紹介しきれなかった写真がまだ数十枚あります。今後も面白いネタを考えて発表していきます！」

栄えある三賞の受賞者の皆さん、本当におめでとうございます！

■分科会という名の懇親会

さあ、WACATE といえば宴会ははずせません！

会場を移して、分科会という名の懇親会が執り行われました。朝の10時から夕方17時まで発表をやり遂げた後は、参加者全員が完全に打ち解けて仲間状態で、そこで飲む酒はとて美味い物でした！

発表の内容から次回のWACATE Short Shortのネタなど、話題は多岐にわたり、結局二次会まで突入する展開となりました。

一日の最後の最後まで熱い展開。参加者の皆さん、本当にお疲れ様でした！



来たれ！WACATEファンよ！（笑）

では最後に。今回のお世話役である、いいだしっぺの川西俊之さんとお手伝いのきゅーみんさんから、WACATE Short Short vol.1 を終えて一言いただきました！

『ワカテらしく思いつきを形にしていける WACATE Short Short』 川西 俊之

「WACATE Short Short」—— それは、今までの WACATE 参加者がメンバーである SNS 上の投稿から始まりました。「WACATE ファン主体のイベントをやりたいなと思うんですが、誰か乗っかる人いませんか?」。ここでノリよく具体化していくのが WACATE 流。早速、企画のたたき台を送らせていただきました。

初回となる vol.1 の内容は、「**青年の主張：ライトニングトークス大会**」。Short Short は WACATE ファンの交流が目的なので内容は何でも良いということでした。ただ、せっかくなので皆さんに話してもらおう。参加者主体の方が WACATE らしいということで、過去3回の **WACATE で得たことなどを発表する機会になれば良い**などと思って色々企画しました。

いざ企画が始まると、担当実行委員として委員長の池田さんが様々相談に乗ってくださいました。また、途中から強力なお手伝い、きゅーみんさんが協力してくださいました。もちろん、参加者の皆さんにも助けて頂き、無事に開催することが出来ました。ワカテらしくやりたいと思った事を素直に声を上げれば、形にしていける。それが WACATE Short Short だと思います。ぜひ皆さんも次の「いいだしっぺ」として、色々アイデアを上げてみてくださいね。

『思いを語り合えた時間、priceless』 きゅーみんさん

WACATE Short Short vol.1 に、私はお手伝いとして、運営準備から参加しました。

運営準備は、プログラムの検討や宣伝、物品の用意など。仕事後や休日に打合せや買出しをして、進めました。加えて、参加者としての発表（ライトニングトークス）の準備もあります。率先して取り組んで下さった「いいだしっぺ」川西さんには及びませんが、仕事後から寝るまでのほとんどを使った日もありました。

しかし、当日はもちろん準備中も、「今この時を過ごせて良かった」と何度も思いました。プログラムを検討していて、発表の終わりはゴングにしようといったアイデアで盛り上がった時。準備中や当日、いろいろな方々との再会や出会いがあった時。そして一番は、**当日の発表と質問を通して思いを語り合うことができた時間**です。参加者全員が発表必須だったこともあり、想像以上に様々な思いが込められた発表を聞く事ができました。発表から伝わる熱気に元気をもらうこともありました。発表後の質疑応答の中で、質問したみなさんの思いまで垣間見えたこともありました。私自身も発表と質問を通して、自分の思いを整理する機会となりました。

運営準備の期間、2週間強。発表準備の期間、約1週間。当日の参加費、1万円。みなさんと思いを語り合えた時間は、そういった数字以上の価値がありました。そんな priceless な時間を下さった、ご参加・ご協力下さったみなさん、特別セッションを引き受けて下さった池田さん、そしていいだしっぺの川西さん、本当にありがとうございました。

いかがでしたか? WACATE ファンによるファンイベント「WACATE Short Short」の熱気を感じていただけでしょうか?

WACATE 実行委員会では、WACATE ファンからの声に応え、今後も継続して開催していきたいと考えています。ネタがあるとか、自分もお世話役にチャレンジしてみたい!という方は、お近くの実行委員まで是非提案下さい!

なお、今回の様子については、組込みネット様にもレポートが掲載されています。そちらも是非読んでみてくださいね。

■次回告知

WACATE Short Short vol.2 は、「もっと外へ飛び出そう!! ハイキング大会」。前回の vol.1 において、十分に室内で頭を使った後は、日光を浴びながら体を動かしませんか?

Vol.2 「いいだしっぺ」は、vol.1 で「おもしろかったで賞」を受賞したおたべさん。楽しいハイキングになること間違いなし!

はじめてでも全然 OK です。みんなで奥多摩方面へ。5月中旬開催予定。乞うご期待!!

(WACATE-Magazine 編集部)

伊せんばいにきく。 氏

第5回：【テストとの関わり】 日本アイ・ビー・エム株式会社 増田 聡 先輩



某 WACATE 実行委員長の夢の詰まった WACATE-Magazine にお呼びいただき誠にありがとうございます。私の拙文が、その夢の実現の一助になれるよう頑張ります！

古くから先輩から若手に対して話すことは、自分の昔話が王道と伺っています。私も例に漏れず、自分の昔話をしてみたいと思います。

IT 業界に入ったのが 18 年前。入社当時は、エンタープライズ系のメインフレーム・アプリケーションの開発・保守のシステムエンジニアをやっていた、プログラムをゴリゴリ書いていました。そのころは、特にテストを意識していた記憶は無いのですが、一連のアプリケーション開発の中で**テストの作業は結構楽しみ**にしていました。自分の作ったプログラムが動く様子を見るのはそれだけで嬉しいことでしたし、バグがあったとしても、修正していく度にソフトウェアとしての強度が高まっていく感覚があり、達成感につながっていたと思います。

90 年代半ばごろに、社内のある商用ソフトウェアのベータ・テストの仕事が舞い込んで来ました。ベータ版のソフトウェアと導入・使用ガイド(英語)が送られてきて、ある期間テストをしてバグを見つけろというもの。大まかなスケジュールは決まっていますが、テスト計画やテストケースなどはこちらに任されていました。

思い出してみると、これが**テストを専門的に取り組んだ最初**でした。社内のいろいろなテスト関連の資料をあさって、テスト計画を立て、テストケースを作り、環境もセットアップし実施していました。幸い弊社には資料は結構ありました。ほとんど英語でしたけど。テストにもフェーズがあって、開始・終了条件をつけるとか、Functional Test と Non-Functional Test があって、云々。Installation Verification Test (IVT)、Translation Verification Test (TVT) など目的によってテストをいろいろ変えとか。ただ、このときは、終わったらテストのことはあつと言間に忘れてしまいました。

その後、クライアントサーバーだとか、インターネットだとかいろいろアプリケーション構築方法・技術・基盤が変化していく中、そういう比較的新しい技術や考えを組織に対して展開していく仕事をしていました。いわゆる、社内コンサルタントというものです。例えば、この開発方法論で開発すると品質が向上するとか、ツールを使うと作業効率がこれだけ上がって、初期投資に対してこれだけお徳ですという感じです。

そうこうしている頃、**本番稼働中のあるアプリケーション**でかなり大きなトラブルがありました。

原因を探ってみるとテストで見つけられるべきバグで、「テストをちゃんとやっているのか？」ということになり、テストに関して組織的に対応すべしという方向性が出ました。**この組織対応の推進チームに私もアサインされ、テストに再び関わることになりました。**

ただ、この仕事も適当にお茶を濁すこともできたかもしれませんが、自分自身で結構のめり込んでいきました。当初は何か良いことが書いてあるだろうと、再び社内の資料やデータなどをいろいろ漁ってみました。しかしながら、今回はなかなか良いものが見つかりません。推進側の技量不足もありますが、“組織”に対してソフトウェアテストの改善活動というのが、一般論としてはあっても個別の具体的計画までに至らないのです。日本語の一般書籍もあたってみましたが、なかなか欲しいものが見つからず、御茶ノ水の三省堂書店のソフトウェアコーナーでちょっと絶望的になっていたのを、いまでも良く覚えています。

これでも、めげずに範囲を広げて、IEEE や情報処理学会などの論文、品質関連の雑誌・書籍、テストツールベンダーのセミナーに出席するなど、ほんとにいろいろ情報を収集していました。仕入れた情報もとに、いろいろ試行錯誤し実践していました。前号の高橋さんが修士の 1 年ちょっとで 10 年分の知識を得たとありましたが、私も**この時期いろいろ知識が付いたと思います**。ソフトウェアテストに関することは、その周辺も含めてほしい頭に入ったという感覚ができました。自分が知らないエリアもまだあるかもしれないが、それは知らなかったとしてちょっと特殊なエリアの話であり恥ずかしいことではないという感覚です。

そんな頃に、ちょうど第 1 回の JaSST が開催されたというニュースをどこかの Web で見ました。同じようにテストに取り組んでいる人もいるんだなあと、ちょっと世間との接点ができました。翌年、JaSST 2004 を聴きに行き、いろいろセッションに出てみると、私が考えて実践したようなことを発表しているので非常に刺激になりました。今自分が実践していることも発表したら価値あることなのかなと思ひ、**JaSST 2005 で今度は発表する側になりました**。ここで賞をいただきまして、その縁で JaSST 実行委員にも入ることになりました。その後は日本のテスト業界の偉人奇人の方達と交遊させていただき、今に至る次第です。今ではソフトウェアテストを生業にいろいろな IT サービスを提供している身分です。

私の場合、開発作業の中でテストが楽しかったという原体験から知らず知らずテストの世界に入ってしまったのですが、読者の皆様も、テストにしろ何にしろ、**自信を持てるぐらいの専門知識を身につけ、いろんな世界に飛び込み、皆様の知識・経験を発信していくとよい**と思います。そういうサイクルでどんどん成長していきましょう！

ワカテにきく☆

第5回：WACATE Girl's Talk 2009 春 中野 さやか(株式会社日本オープンシステムズ)



著者近影

もっと女の子の話聞いてみたいと思って、テストをお題に社内検証部の女の子で座談会してみました。

■よかった、嬉しい、面白いと思うこと。

ばん(2年目)：ブルースクリーンとかででたテストアイテムが、不具合が出なくなったのを見て、すごい感慨深くなりました。

ミフィ(3年目)：私は自分が見つけた不具合で出荷判定を通らなくて延期になったので、(延期はともかく)見つかったよかったな～って。

ピバ(3年目)：開発から、「助かった」って言われたのが普通に嬉しかったなあ～って思いました。

なかの：テスト設計でひらめいちゃって、ぐわあ～って進むとき「今、私スゴイ!カッコいい～♪」(笑)

てい(4年目)：あります!すごい進むとき、「あ、もうダメだ。(凹)」ってとき。

ピバ：技法があるのも面白い。

ばん：技法を、仕様を見ながらどうやって使うのがよくわからないんです。

てい：私はそんなに意識しては使っていないくて、仕様を理解しながら設計していくのがやっとなで・・・

ミフィ：技法を使うことを目的にしたら、仕様がわからなくなりますよね。

なかの：昔、ケースを減らすために試行錯誤したのが、実は技法だったことはあったよ。

てい：テストケースを省くときって、人の個性がでませんか?1件ずつ要る・要らないを分ける人と、目標の件数に抑えるためにある程度の思い切りをつける人と。

ピバ：それ、どちらがいいんですか?

てい：ある程度は思い切ったほうがいい。結果的には。

■テスト、好き?

ピバ：テストって人間性の部分が強と思う。テスト実行は気遣いができる人がいいかもしれない。それプラス、テスト設計は知識が必要かな。「ユーザはこう使うだろう」って思える人は、いいテスト実行者とか、テスト設計者とかになれるかなって思います。

なかの：その話、先日、新人に会ったときにした?(嬉)

ばん：しました!

ピバ：しました!めっちゃ(検証を)話りました!

なかの：(笑)自分で好きだと思っていないと、話れないかもね。

ピバ：テスト”チーム”っていいですよ!仲良さそうにみえる。

■テストで発見!新しい自分!?

ピバ：人と話をするのが楽しいと思えた気がします。しゃべらない子だったし、あまり飲まない子だったし・・・(笑)

てい：いかに文章を簡潔にするかをテーマにして、メールとかを書いている気がします。不具合報告書は簡潔に、から始まっているのかなって。

ピバ：それ、重要だと思います。仕様書の書き方の本とか読むようにしています。文章かけないとお話にならない。

■MENSとGIRLS

ピバ：なんか差はあるんですかね?

ミフィ：女性だからとかって、そんなに意識していないと思うんですけど・・・

ピバ：道を作っている人ってカッコいい。すごい男性はカッコいいけど、すごい女性はもっとカッコよく見えてしまう☆

一同：(笑)

ピバ：女性には笑顔でその場を和ませる力があるので、そこに男性的なサラッとした面があればよいのかも。

なかの：男性と女性と、お互いのいい面が混ざり合ったら、より良いチームになるかもね(^~)

本コーナーはリレーコラム形式で進めています。
今回はWACATE2008冬にご参加いただいた、中野さんに書いていただきました。
有難うございました★

Software Test Topics

当番：上田 卓由 (WACATE Magazine 編集部)

今回、Software Test Topics の担当を務めさせていただくことになりました。上田と申します。宜しくお願いします！！

さて、5月に刊行されるものやイベントなどをご紹介します。

Quality One

発行元： 株式会社日科技連出版社

形態： PDF

価格： 無料

5月は年4回(2月、5月、8月、11月)発行予定のSQIP Web マガジン"Quality One"が発行予定の月です！

ソフトウェアテスト品質シンポジウム 2009

9月9日(水)~11日(金)に行われるソフトウェア品質シンポジウム 2009 の一般発表募集のご案内です。

●投稿要領

経路論文、経路発表の2カテゴリの投稿を募集します。どちらの場合も、当日の発表は、発表25分、質疑5分という構成になっています。

(1)経路論文(アブストラクト、査読つき論文)

ソフトウェア品質に関する新たな提案、既存の方法・技術の実践などを報告する論文です。

著名な専門家によるレビューが行われ、論文をよりよくするためのコメントをお送りします。

優秀な論文については、シンポジウムの閉会式にて表彰いたします。論文原稿はフォーマットにあわせてご投稿いただけます。

(フォーマットはアブストラクト査読に合格した方に電子メールでお送りします)。

(2)経路発表(アブストラクト、発表資料)

実践活用事例、ノウハウなどをまとめた発表です。また、現在取り組んでいる活動の速報、問題提起等もお待ちしております。原稿の形式は、スライド形式のみです。

●募集テーマ

以下のテーマに関連する実践結果をベースにした「経路論文」と「経路発表」を募集いたします。

どちらの場合も、必ずしも成功事例である必要はなく、失敗事例から学んだ内容も大歓迎です。

結果が出てからまとめよう、と考える方も多いですが、途中の段階でもそれまでの結果をまとめ、考察することは出来ます。

アブストラクトの投稿締め切りは5月7日(木)、アブストラクトの採否通知予定は5月21日(木)となっております。

WACATE 2009 夏

「はじめてみようテストレビュー(仮)」というサブタイトルのとおり、今回のWACATEはレビューがテーマになっているようですねえ～。

楽しみです。(ちなみに上田はWACATE 2008 冬から参加しています)

6月13日(土)～6月14日(日)(予定)の二泊二日で三浦海岸とのこと。夏！WACATE！ということで、2つの意味で「あつい」二日間になるんでしょうねえ参加受付は**5月11日(予定)**ということです。

今回のテーマはテストレビュー

・レビューミーティング当日にいきなりドキュメントを配布されて、読むだけで終わってしまった

・レビューは1回きりで指摘事項を反映した後のチェックは行っていない

・レビューの種類がいくつかあるのは知っているけど違いがよくわからない

これらの様々な悩みについて、二日間こたたるチーム演習と参加者間の交流を通して解決の糸口を掴んでみませんか？

ESEC(組み込みシステム開発技術展)

東京ビッグサイトで5月13日(水)～5月15日(金)の期間行われる組み込みシステムに関する展示会です。

同会場で「ソフトウェア開発環境展」「データウェアハウス&CRM EXPO」「データストレージ EXPO」「情報セキュリティ EXPO」「RFIDソリューション EXPO」「ダイレクトマーケティング EXPO」「Web2.0 マーケティングフェア」「グリーンIT EXPO」が同会場で開催されます。

テストと関係ないように感じますが、「ソフトウェアテスト」というセクション(スペース)が設けられていて(あまりスペースは広くないですが)、そこで自動試験用のロボットのデモなどが行われています。

ちなみに去年は「直行表によるテストケース設計」についてプレゼンテーションを行っていた企業もありました。

私自身6～7年前から、毎年この展示会に行っていますが、ソフトウェアテストに関するブースやスペースが増えていっているなあという印象です。とりあえず、買って読んでみようかなあと思っています。

今回初めて編集に参加しましたが、発行される本やイベントなどの紹介、思った以上に大変でした。情報収集には慣れていると思ってたんだけどなあ～という感じです…。

ちなみに、このコーナーでは、書籍やイベントの情報を募集しています。例えば、「来月勉強会とかOFF会とか開催するんだけど掲載してくれない？」といったものでもOKです。開催地も、日本全国津々浦々、どこでもかまいません。情報をお待ちしております m(_ _)m

池田暁の

ミュージカルに恋して。

【第五幕】— 継続することの効果 —

もう5回目なんですよ

単なる物好きではじめたこのコーナーも今回で5回目、いやはや、本当にはやいものです。毎回文字数の制限に苦しみながらも、趣味のことなので楽しく書かせていただいています。

その結果、徐々に文字数は増加、ついに前回から「**どんなに頑張ってもIPは厳しい**」ということで2Pに増量とあいなりました。前号の本コーナー以外でもWACATE-Blog出張所でミュージカル遠征が取り上げられましたから、一部からは「**もはやなんの情報誌かよく分らん**」という声も聞かれました。

しかしながら、そもそもWACATE MagazineはWACATEとWACATEファンをつなぐための情報誌であって技術情報誌の類ではありませんので、OKと思います。というか、OKです。

業務の合間に軽く読める、かつ、普段あまり見えないWACATEの中の人たちが見える、みたいな内容ですので、**あくまでもこのノリで進めていきたい**と思います。

技術誌を読みたい方は技術誌を読めばいいだけですわ。

話かけられやすくなった

まあそんなこんなで趣味に暴走した本コーナーなんですけど、最近は一ひたりよがりであってもとにかく続けてみるものだなあと感じています。

本コーナーを始めてから約四ヶ月がたつことになりましたが、このころイベント後の懇親会などで、初めてお会いする方に「**ミュージカルがお好きなんですよ？**」と声をかけていただくことが多くなりました。

初対面の人に話しかけるときの一番困るのは口火を切る話題です。

私の場合はこうして趣味をさらけだしていますから、話かけるネタとして使いやすいようです。また、「男でミュージカル好き」という人はなかなかいないようですから、**私のキャラ立ちという意味でも非常にいい効果を与えてくれているようです。**

覚えてもらうために努力しよう

人に話しかけてもらったり覚えてもらおうと思ったら、話かけ易い雰囲気をつくり、また、**自分の特色となる何かをアピール**しなければなりません。

そしてそれは継続して行うことが大切だと思います。

単発のアピールは、大抵の場合その効果は長続きしません。

なんだかんだ**継続**することで、**人の意識にだんだんと刷り込まれていき、そこで初めて効果が浸透していきます。**

世の中簡単に人脈を求める人、もっと言えば、愛される事を望む人が意外多いような気がします。

しかし、そのための努力をしているでしょうか？

そうなりたいと願うだけではなんにも変わりません。

どんな形であっても、まず行動を起こし、継続していくことが大切だと思います。これは勉強などにも言えることです。

ちなみに、周りにはひどく馬鹿にされるんですが、私は本気で「**IT業界一のミュージカルマニア**」になりたい、そう呼ばれるようになりたいと考えています。

業界のトップを走る人たちって、必ず何か玄人はだしの趣味を持っていますよね。

仕事もちゃんとこなし、**趣味にも全力投球できるエネルギーギッシュな人になりたいな**と考えています。

2009年4月の観劇記

今日は**5:演目、7回**の観劇。笹本玲奈さんが「僕の妹」で連ドラデビューとのことで、ひさびさにTVをチェック。

「マイ・フェア・レディ」(帝国劇場)

4/5(土)ソワレ、1階S列センターで観劇。演出は西川信廣。

同作はオードリー・ヘップバーンがイライザ役を務めた映画版が有名。

日本人によるミュージカルとしては国内初となる、歴史が深い演目である。

本公演中にイライザ=大地真央が555回を迎える。今回はその初日を観劇した。

ミュージカル版は初見だったのですが、**大地真央**

はさすがですね。**役を務めて500回を超えていますから、身体に染みついている感覚。安定してかつ隙がない演技は感嘆。**

ヒギンズ=石井一孝はこのような長科白が多い芝居をさせるとさすがですね。彼の魅力が存分に発揮されていました。今回は汗の量も少ないような…?

ピッカリング=羽場裕一は私的初見。そつがなく、あくのない演技で安心感がありました。

ただ、残念だったのはフレディ=姜暢雄。歌唱力的にも演技力的にも、もう一歩、イライザとヒギンズの間に入ったか食い込んでいけないため、非常に物足りない印象があった。

演出面では、全体通して衣装や舞台道具の「白」が特にきれいに演出されていて好感。

演目としての品の良さが際立ちます。

拍手のタイミングが宝塚ルールで少し驚きましたが、そうか、その頃からのファンが多いのですね。

そのせいか、**劇場の雰囲気は落ち着いた感じで安心でき、居心地が良かった。**

本演目は5月1日の千種楽も観劇予定。



♪「ニュー・ブレイン」(シアタークリエ)

4/16(木)ソワレ、6列センターで観劇。

本作は石丸幹二のミュージカル復帰作。演出はダニエル・ゴールドスタイン。ブロードウェイの作詞作曲家を志しているニューヨーカーが、突然日常を一変される病気に襲われる。

ゴードン=石丸幹二はもう少し存在感が欲しかったように思う。一番目立っていたのはローダ=樹里咲穂。**パンツスーツでの立ち姿が、本当にかっこいい!**

彼女が舞台上立つと、ついつい目で追ってしまい、石丸の存在感が希薄になってしまいましたね。ロジャー=畠中洋はルドルフでのツェップス役とは違った新しい魅力がありました。

濃厚なキスシーンとからみ、笑わせてもらいました。

楽曲はテクニカルなものが多く、皆よく歌っていたと思う。ただ、演出はもう少しわかりやすくなかったのだろうか。B'way作品に多いのだが、B'wayで上演されることが前提となっており、他国で上演される際に背景が説明不足となる場合が多い。

今作もそのような印象を受けた。素人には勧めにくいところがある。

♪「トライアングル ～ルームシェアのススメ～」

(PARCO 劇場)

4/17(金)ソワレ、K列センターブロックで観劇。演出は宮田慶子。ショーミュージカルと題し、お芝居あり、歌あり、ダンスありという内容。

小説家を志す沢渡ナツメ=井上芳雄の部屋に、ある日隣人のミュージシャン志望の村野幸三郎=新納慎也が部屋に飛び込んでくる。そこに、村野との結婚を望む片山芽依=彩乃かなみが転がり込み、3人のルームシェアが始まる…という内容。

井上と新納のコンビは他の演目で見ているが、今回も非常に意気のあった演技でした。また、そこに彩乃が入ると、これもまたいい。掛け合いが小気味よくとにかか楽しい。途中途中に入る歌のシーンも良かったですね。歌唱力は三人とも折り紙付きですから、安心して聴けました。

今作では新納がたくさん歌っていたので、ファンは喜んだのではと思う。

井上は悩む役でしたが、やはりこういう役は似合いますね。

非常に楽しい舞台で、これならもう少し早く参加しておけば良かったと後悔。再演を期待です。

♪「DownTown Follies vol. 6」(はしもと杜のホール)

4/27(月)ソワレ、10列目センターで観劇。

実は昨年のvol.5を見逃してしまっていて、今年も東京公演を見逃してしまったので残念に思っていた。

神奈川公演をたまたま見つけて、これを逃してはならぬと急ぎチケットを確保。

結論から書くと、非常に楽しい舞台で行って良かった。

vol.6は島田歌穂・玉野和紀・吉野圭吾・幸寿たつきの四人が出演。とにかく二時間最初から最後まで笑いっぱなしで、内容も歌あり、ダンスあり、ミュージカルありと盛りだくさん。

島田は今まで大作ミュージカルのイメージが強かったのですが、このはじけたキャラクターには大いに驚かせてもらった。

玉野はさすがのタップダンス。ソロでは手拍子が起きていたが、じっくりと聴きたかったですね。

吉野はそのお笑いのポジションが面白くてしょうがなかった。

今回一番興奮したのは、幸寿たつきの男役姿。まさか見られるとは思わなかったのですが、これは得したなと思った。

来年のvol.7が楽しみ。

♪その他

回転木馬は先月に引き続き千穂菜含め3回観劇。「ひとりじゃないさ」は何度聴いても涙を誘います。

♪2009年5月のキニナル演目♪

5月のキニナル演目は「シラノ」

★シラノ

<http://www.tohostage.com/cyrano/>

日生劇場、2009/05/05(火)～2009/05/28(木)。

出演：鹿賀丈史、朝海ひかる、浦井健治、中河内雅貴(Wキャスト)ほか

あらすじ：舞台は17世紀のパリ。文武両道でオ人であった近衛騎士シラノはその生まれつきの大鼻と辛辣な言辭により多くの敵を作っていた。美しい従妹ロクサーヌを深く愛していた彼だが、醜い容貌からその気持ちを打ち明けられず、恋のとりもちを頼まれる。ロベタなクリスチャンに愛の言葉を教え続けるシラノのおかげで、二人は結婚する。戦争中においても、シラノは彼に変わって恋文を送り続ける。その戦争でクリスチャンは戦争で戦死。喪に服し続けるロクサーヌであるが、シラノはその想いを打ち明けることができない…

お話自体は有名なもので、説明の必要はありませんね。「ジキル&ハイド」のレスリー・アリカス(作詞・脚本)とフランク・ワイルドホーン(作曲)のコンビということで、とても楽しみにしています。

♪今月の一枚「Rudolf -AFFAIRE THE MAYERLING」

こうして劇場に通ってはいますが、やはり自宅でも音楽を聴いたりしたいもの。というわけで、私が購入したCDやDVDで、そのときヒーローレーションなものをご紹介します。

栄えある第一回目は「Rudolf -AFFAIRE THE MAYERLING」(ハイライト・スタジオ録音盤)です。

昨年、帝国劇場に通うことになった「Rudolf-The Last Kiss」のウィーン版のCDということになります。残念ながらこの東宝版のCDやDVDは発売されていないため、ウィーン版でのリリースを心待ちにしていました。どの曲もフランク・ワイルドホーン氏による名曲揃いなのですが、特に「Something More」や「Only Love」、「The Steps of Tomorrow」は、心を強く揺さぶられます。

「The Steps of Tomorrow」は、実はWACATEのテーマ曲でして(もっともそう言っているのは私だけですが)、すぐく前向きな曲で元氣と勇気をもらえます。

ということで、是非読者の皆様も一枚…といたいところなのですが、海外盤ということで普通のショップには置かれていません。もし本稿を読んで買ってみたいかなと思われた方はインターネットショップや輸入CDを扱っているお店をご利用下さい。

ちなみに私ですが、JR有楽町駅前にある交通会館2Fの「宝塚アン」にて購入しました。この店は宝塚専門店だと思われていますが、輸入ミュージカルCDも取り扱っています。一度のぞいてみると良いでしょう。

来月以降もCDやDVDがご紹介できればと考えています。楽しみにお待ち下さいね。

♪終わりに♪

『放浪記@帝国劇場』、『シラノ@日生劇場』、『この森で天使はバスを降りた@シアタークリエ』はチケットを確保済み。

5月は6月の『ミー・アンド・マイ・ガール@帝国劇場』に通う予定ですので、小休止といったところでしょうか。

これから帝劇は8月～9月の『ダンス・オブ・ヴァンパイア』、10月～11月『レ・ミゼラブル』と大作が続きますね。年末まで忙しくなりそうです。

☆コヤマンの☆ 補給戦線異状なし!

本コーナーはテスト業界という
知的戦場で戦うテストエンジニアたちの
糖質補給等を暑苦しく支える
漢(おとこ)たちの物語である!

Mission-2 : エンジニアたるもの堂々と視野を広げるべし!

人物紹介

新兵: 元気ハツラツ×やる気ムンムンの新人。
先輩は神だと思っているちょっぴり残念な子。たぶん 19 歳。

軍曹: 上には弱く下には滅法強いタイプのおっちゃん。
33 歳窓際体育会系。精神年齢は 14 歳。

■まさか2回目があるとは。

新兵: 軍曹ッ! まさか 2 回目があるとは…この新兵、泣きそうでありますッ!
軍曹: うむ。まがりなりとも技術関連の発行物にこんな記事を載せていて、よく
平気な顔をしてられるな。

新兵: す…すみません!

軍曹: うむ。貴様が悪い。

新兵: ……

軍曹: (ガン無視。) いやーしかしもしもさくら舞い散る新年度じゃのう。

新兵: そ、そうですね。私にも後輩が出来たり…

軍曹: 甘いワァッ!!!!!! (パキッ)

新兵: くふうっ…(キラリと光る涙)

軍曹: 貴様ごときが後輩を持つなどは 10 年早いッ!!

新兵: す、すみません! 自分が悪くなりましたッ!

軍曹: だいたい貴様、この不景気にウチのような零細企業が
新入社員を雇えると思っておるのかッ!?

新兵: く、軍曹ッ! び、微かに生々しくありますッ!

軍曹: うむ。この戦後最大の不況…まさに我々サラリーマンにとっては「戦場」
…というフケだな。そして、我々はこの広大な「戦場」で生き残らねばな
らんのだッ!

新兵: はい!

軍曹: 返事が小さいワァッ!!!!!! (パキッ)

新兵: くはぁっ…!(キラリと光る涙)

軍曹: ふん。わかったような口を利きおって…。貴様はまだ本物の恐怖を見て
いない…そう井の中の蛙に過ぎんッ!

新兵: は、はぁ…

軍曹: そうだ、貴様ロールケーキを知っておるか?

新兵: へ? はぁ…ま。よくスーパーとかで 100 円で売ってる「スイスロール」な
らいつもお世話になっておりますが…

軍曹: ふむ…。本当に貴様は世界が小さいな。

新兵: す…すみませんッ!

軍曹: ロールケーキといえばコヤマンの地元の知り合いの実家のお菓子屋さん
「モンテローザ」とかがあるではないか。

新兵: く、軍曹…そんなローカルネタでは誰もついてこないですし、それこそ
井の中の…ハッ(軍曹の表情に気づく)

軍曹: ……ほう。で? 続きは? (ものすごい笑顔。)

新兵: い、いえ。なんでもありませんッ!

軍曹: なんだよ〜。折角なんだから言えはいいじゃあないか。別に怒るとは
決まっていないし! ほら! 正直に言ってごらんよ! さぁ! (笑顔で)

新兵: は、はぁ…では…。そ、それこそ井の中のか…

軍曹: 貴様ァッ口応えするな!! (ドグシャァッ)

新兵: ばべらっ…(ズジャァァァッ) ←竹とんぼをイメージしてください。

軍曹: ふん、最近の若いモンは口の利き方がなっておらん…。まっ簡単に言
うと単にロールケーキと言ってもたくさん種類があるのだッ

新兵: ……ぶぁ…ぶぁい。

軍曹: そして、ロールケーキといえば「堂島ロール」。

新兵: はぁ…「どーじまろーる」。

軍曹: うむ。まっ無知な貴様に特別に教えておくと、芸能界でもお土産などに
く使われている逸品だ。まさに堂々たるロールケーキ界の王者なのだ。

新兵: そ、そーなんですか!?

軍曹: うむ。「はな●るマーケット」などでも紹介されているぞ。

新兵: ヤ…ヤッくんまで…! す、すごいですね…

軍曹: なんととってもあのクリームと生地バランスが…ええい。説明するより食
った方が早いッ! というか食いたくなってきたから買ってこい。

新兵: く、軍曹ッ! 何処で売られているのでありますか…!?

軍曹: うむ。実は近所の百貨店に期間限定で出店をしているのだッ!

新兵: はぁ。ということは現在「朝 08:00 (マルハチマルマル)」なので、あと 2 時間くら
いしたら行ってきます。

軍曹: だから貴様はバカなのだァァァァァッ!!!!!! (パキッ)

新兵: うぐはぁっ…(キラリと光るファンタジー)

軍曹: 百貨店は堂島ロールが来ると戦場と化す…近所のセレブ達が根こそぎ
買って行くのだッ! ※注: でも 2 時間前は早すぎです。

新兵: そ、そんな…(ゴクリ)…

軍曹: 新兵ッ! 貴様に堂島ロール 2 本確保という使命を与えるッ!!! 道は険
しいが、死力を尽くして確保してこいッ!!!

生きて帰った時は…貴様にも食す権利を与える!!

新兵: サー! イェッサー!! 新兵、戦場に向かいます!!

軍曹: うむ。貴様ならできると信じておる。頼んだぞ…新兵。

新兵: く、軍曹…! こんなでこそこの私を信頼して…必ずや、かならずや
軍曹にお届けいたします!!!!…ではッ!! (ダッシュ)

軍曹: ほーい。いてらー。

いやー。並ぶのかったりーからマジ助かるわー。(ホリホリ)

■今月のウエボン。「堂島ロール」

ミュージカル「回転木馬」の
トークショーで笹本玲奈さん
がケータリングしたとお話し
てくれたものです。

すごくシンプルですがとても
上品で贅沢な味がする逸品
です♪ 並ぶ価値アリ!†



WACATE-Blog出張所

■ご挨拶

こんにちわー♪WACATE 実行委員によるリレーコラム「WACATE-Blog 出張所」ということでコヤマンに出番がまわって参りました。(いいのかなぁw)

早速ずどーんと4月にやってきたWACATE 実行委員ネタをお送りします^^

■WACATE ShortShort に参加者として参戦!

さる4/18(土)に開催された「WACATE ShortShort」に参加してきました。



そもそもライトニングトークスをするのが初めての経験だったので、どきどきしながら表参道へ。

そしてスターバックスコーヒーでコーヒーを買ったあと…迷子に@@:

「場所がわかんないですー。うわーん。」と川西さんに泣きついたら迎えに来てくださいました^^

なんとさっきコーヒーを買ったスタバの隣のビルでしたw(←気づけ)

オフ会気分でのゆる〜りと始まるも、「ゴングが鳴ったらそこまで!」となかなかルールは非情なカンジ。ライトニングトークスは初体験だったので途中で力尽きないかどうか不安でいっぱいでした@@

■そして発表!

SNSの自分の日記で「**目標一人一ニヤリ**」というワケわからん目標を掲げていたので達成できるかどうか不安でしたが最初の小ネタでドッという笑いが! よしいける!(何がだ)



そのあとも自分でニヤニヤしながら発表が続き、**ジャスト5分**で終了! 思わずガッツポーズww



ちなみに僕のLTは「WACATE-Magazineのキセキ★」と題してWACATE-Magazineヒストリーをノリで紹介させていただきました。

皆さんからのフィードバックとして、たくさんのお言葉をいただきました。

「舞台裏というテーマが面白かった。」

「やってみた。よかった。という行動がいい。」

「Magazineのあのノリを生み出している背景が知れたのがよかったです。」

「記事同様、

笑いながら見させていただきました。」

「より高いレベルの笑いを次回に期待します。」

「芸は身を助く、ということか?」

「いつ寝てるんですか?」

と後半はなんか変ですがさまざまなフィードバックをいただきましたw

いやー。こういうフィードバックを頂けると一層やる気が出ます! ちなみに普通に夜寝ます! w



昼休みもワイワイがやがやと。

なんだか一日中笑って過ごした気がします^^

普通のオフ会というだけではなくて、こういったウィットに富んだ集まりができるのもWACATEならではののかな〜と少し思ったりしています^^

■最後に

僕もいちWACATEファンであることを思い出せた、とても有意義な一日でした★

次回のShortShortにも期待です♪

書いた人: コヤマン

開運

源太郎のソフトウェアテスト占い

※「ソフトウェアテスト占い」とは…

日本の伝統的な暦で知られる気学(九気性)をもとに、日本古来の統計学とソフトウェアテストで培った時代の統計学を組み合わせ考察された占いである! (笑)

	生まれ年	5月の運勢
一白水星	S47/S56/H2	俄然衰運にて、波乱曲折外見は楽しそうなるも内実は憂れあり、一身上の問題、住所の異動など起り易く、気のみ焦り 兎角物事渉らず 、商取引上にも意外の損失を背負込むことならば、 念には念を入れて慎重な行動をとれ 。
二黒土星	S46/S55/H1	俗に言う八方塞の大衰運月、四方八方から五月蠅い問題を持込まれ、一ヶ月は主星の位置にあって、 力たらず方策つきで進退の自由を失い易く物事控え目に着実に精進すべき なり、然し徒に失望していると開運の機を失う故、分外の望を起さず、手違いの起らぬ様 不断の努力を怠るな 。
三碧木星	S45/S54/S63	本命星天門に入りやや躍動の気味あれども木剋金の相剋にてまだ衰運が続く、兎角一攫千金で濡れ手で粟を掴みどりなどの 山気を起したがり 、これが 失敗の原因 となる、軽率に動いたり迷ったりせず 渾身の精力を注いで困苦を押し切って進む大決心を要す 。
四緑木星	S44/S53/S62	安心の出来ぬ刻苦練磨の時 なり、物事渋滞しすらすらと行かず、事業隙間の如くあるか出費多し、また家内疎闊間に苦情が起り易し短気を慎み和を図り柔弱な意志を起さず臆せず 自己の本分に精進すべし 。
五黄土星	S43/S52/S61	平穩の月にて吉凶相反 する然し生来の放縱の心を以てすれば到底平穩無事には過し難い、心を張り締めて精を出し一家の不和、 訴訟争論 など起らぬ様 平素より心がけ虚栄心を慎め 住所の変動、職業に変化のなき様、努力すべきなり。
六白金星	S42/S51/S60	運氣頗る盛ん にして、 従来の不備は回復する時 なり故に従来の計画中の事は一気に取り運びによるしく、大いに見込みあり、 然し山気は禁物 、正道を辿り駈引き進退共にその当を得れば目的貫徹し得るべし、 縁談、開業移転建設等は方位を良く見て実効すれば成功す 。
七赤金星	S41/S50/S59	運氣盛大 にして大いに伸び上らんとする月なり、商取引上に於いても、利益大に獲得出来住所の移転ありても支障なし実行して可、然し 余り調子に乗らば悪い目にあう 、先すよく己を知ることを忘れるな若い人は 目上の引立て出世の端緒を得る 、大いに奮起して 幸福を得よ 。
八白土星	S40/S49/S58	概ね平穩 なる故何事にも手心を加えず小細工を労さず、 我意を張らぬ様些細な事から訴訟争論 など起し理に居て非に陥るような事にならぬよう警戒しすべて冷静に事を考え 目上の意見を自ら進んで求める様心掛けるべし 。
九紫火星	S39/S48/S57	引き続き運氣盛んなり、 然し「勝つて兎の緒を締める」と言う如く 。油断せず緊張の理に幸運の栄冠を掌中におさめる時なり、 然し他人の甘言に乗気になり 、従来を職業を変える様な了見を起せば 挽回のつかぬ失敗を招くに至る 、 注意すべし 。

月盤 三碧木星				年盤 九紫火星			
南		暗剣殺		南		暗剣殺	
東	1	6	8	東	8	4	6
	9	2	4		7	9	2
	5	7	3		3	5	1
西				西			
五黄殺		北		五黄殺		北	

◆源太郎のちょっと一言

占いと計測はちょっと似ているかも?

①統計学の観点から計測する対象を決めて傾向を確認します。

②傾向を確認した後、その後起きうる現象を予測します。

③一番重要なのは、統計・予測を元に自分自身で判断して次の行動をとるといことです!

どんなに有名な手法でも、現場に即していない方法を用いるのは意味がありません。

自分に合った計測を行い、現場に即した判断をしてください。

占いも同様で、あくまでも参考意見として自分自身で判断して次の行動をしたいと思います♪

お知らせ

5月31日(thu)に WACATE-Magazine vol.6 発行します!(たぶん)

次号の特集も「WACATE2009 夏 特集!」を予定しています★

来たれ! 投稿戦士!

WACATE-Magazine では“ソフトウェアテストや品質に関する記事”を常に募集中です。

来たれ! 投・稿・戦・士!!!!

WACATE-Magazine はボランティアベースで発行されています。したがって原稿料は出ません。※ノーギャラです。

投稿いただいた原稿の掲載可否、掲載時期については編集部で決定させていただきます。

特定の商用ツールやサポートなど営利色が強い原稿は原則として掲載いたしません。

レイアウトなどは全て編集部で行います。また、特に戻り確認などを行いません。

単なる論文は掲載しません。紙面の雰囲気を讀んだ、イイ感じな文体や内容をお願いします。

公序良俗に反すると思われるものについても掲載しません。

以上を了解した上で、覚悟完了! の方は WACATE-Magazine 編集部「magazine@wacate.jp」まで、是非ご連絡ください。

折り返し、担当より要綱をご連絡いたします。

楽しい、そして役に立つ紙面にするため、是非ご協力いただければ幸いです♪

☆その他、WACATE-Magazine では以下の情報をお待ちしています☆

- 書籍情報(オススメ書籍情報も可)
- イベント情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
- 勉強会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
- オフ会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
- デザート情報(甘いものならなんでも。イカス! やつで。)

などなど、お待ちしております♪

きたれ 次世代の戦士達よ

WACATE実行委員募集
詳しくは以下のURLまで。
<http://wacate.jp>



★★★ WACATE 実行委員募集中 ★★★

編集後記

いいんちょ★5月でまた一つ歳をとります。誕生日プレゼントお待ちしております!

ぶくいんちょ★今月号から新しい仲間が加入、(▽)×(▽)×(▽)ノ

ミエだ★編集に初参加〜♪

あたい★新顔です。これからよろしくお願いします!!

かもん★ホント 就活は地獄だぜ! フウハハハハハハ〜

コヤマン★誰も触れてないけど、黄金週間ですよ! どこ遊びにいこーかな〜

はなはな★三崎のお寿司、堪能してきました〜♪

あらかみ★♪第二子が生まれました♪(・・・テンテコ舞です・・・)

★あくづい★

2009/5/3(sun)16:30

WACATE-Magazine へんしゅ

✉ Magazine@wacate.jp

<http://wacate.jp/Magazine/>